

2023（令和5）年度

庄内自然博物館構想推進協議会

日 時：2023年3月29日（水）15:00～17:00

会 場：鶴岡市自然学習交流館 ほとりあ

…… 次 第 ……

1. 開 会

2. 協議会役員を選任 役員の更新

3. 報 告

（1）2022年度 事業実績

（2）2022年度 収支決算

（3）その他

4. 協 議

（1）2023年度の協議会の体制(案) 及び会議予定(案)

（2）2023年度 事業計画(案)

（3）2023年度 収支予算(案)

（4）運営委員会のあり方及び中長期計画の検討について

（5）その他

5. その他

（1）(仮称) JRE 加茂風力発電事業の中止を求める市の表明について

（2）高館山遊歩道の借り受けについて

（3）上池・下池ため池耐震補強工事の概要

6. 閉 会

庄内自然博物館構想推進協議会 委員名簿(2023~2024年度)

NO	所属団体	所属役職	協議会役職	氏名	備考
1	鶴岡市大山自治会	会長	会長	櫻井 修治	
2	鶴岡市西郷自治会	会長	副会長	富樫 和男	
3	鶴岡市加茂地区自治振興会	会長		上林 達哉	(代) 斎藤 正哉
4	鶴岡市湯野浜地区自治会	会長		菅原 正彦	
5	出羽商工会	大山支部代表理事		菅原 成規	
6	大山観光協会	会長	監事	遠藤 武	
7	JA鶴岡大山支所	支所長		長谷川 啓	
8	庄内赤川土地改良区	理事長		本間 松弥	(代) 富樫 司
9	西郷土地改良区	理事長	監事	佐藤 保	
10	大山公園再生協議会	副会長		井上 俊男	
11	庄内森林管理署	署長		山之内 弘幸	(随) 葛西 譲
12	羽黒自然保護官事務所	自然保護官		澤野 崇	
13	鶴岡市自然学習交流館ほとりあ	館長		富樫 均	
14	出羽三山の自然を守る会	自然教室担当		長南 厚	
15	水野野生生物調査室	主宰		水野 重紀	
16	朝日庄内森林生態系保全センター	所長		中嶋 一	
17	庄内自然博物館構想推進協議会運営委員会	委員長	副会長	平 智	
18	庄内総合支庁産業経済部農村計画課	次長兼課長		足達 雅一	
19	庄内総合支庁産業経済部森林整備課森づくり推進室	室長		井上 勝幸	
20	庄内総合支庁保健福祉環境部環境課	課長		後藤 忠史	(随) 阿部 早百合
21	鶴岡市市民部	部長		伊藤 慶也	
22	鶴岡市自然学習交流館ほとりあ	元館長	相談役	植松 芳平	
23	庄内自然博物館構想推進協議会	前会長	顧問	橋本 正輝	
-	鶴岡市農林水産部農山漁村振興課	農山漁村振興課長	オブザーバー	高橋 修也	
-	鶴岡市建設部土木課	土木課長	オブザーバー	齋藤 健史	(随) 中西 友一郎
-	鶴岡市健康福祉部子育て推進課	課長	オブザーバー	渡会 健一	
-	鶴岡市商工観光部観光物産課	課長	オブザーバー	剣持 健志	
-	鶴岡市教育委員会学校教育課	課長	オブザーバー	成澤 和則	
-	鶴岡市教育委員会スポーツ課	課長	オブザーバー	阿部 三成	(代) 吉田 修
事務局長	鶴岡市市民部環境課	課長		藤澤 実	
事務局次長	鶴岡市自然学習交流館	学芸員兼副館長		上山 剛司	
事務局	鶴岡市市民部環境課	主査		加藤 崇	
事務局	鶴岡市市民部環境課	主任		下本 敬己	
事務局	庄内自然博物館構想推進協議会	事務局員		鈴木 あかね	

庄内自然博物館構想推進協議会設置要綱

(名称)

第1条 この会は、庄内自然博物館構想推進協議会（以下「協議会」という。）と称する。

(事務所)

第2条 協議会は、主たる事務所を山形県鶴岡市馬場町9番25号に置き、従たる事務所を山形県鶴岡市馬町字駒繫3番地1に置く。

(目的)

第3条 協議会は、庄内自然博物館構想を推進する区域において、庄内自然博物館構想の理念のもとに市民の主体的参画と協働による自然環境の保全と、自然と触れ合う自然環境学習などの事業を行い、人と自然の共生に資することを目的とする。

(所掌事項)

第4条 協議会は、前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- (1) 自然を体験し、親しみ、学習するための講習会、研修会等の企画及び実施に関すること。
- (2) 湿地、森林、生物多様性の保全に関すること。
- (3) 前2項に関わる指導者の養成に関すること。
- (4) その他協議会の目的の達成に必要なこと。

(組織)

第5条 協議会は、第2条の目的に賛同する市民、学識経験者、団体代表者等の委員で構成する。

2 協議会には、委員の互選により次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 監事 2名

3 会長は、協議会を代表し、その業務を総括する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理する。

5 監事は、財産及び会計並びに業務執行の状況を監査する。

(役員任期)

第6条 役員任期は、2年とする。ただし、役員が欠けた場合における補欠役員任期は、前任者の残任期間とする。

2 役員は再任を妨げない。

(顧問及び相談役)

第7条 協議会に顧問及び相談役を置くことができる。

2 顧問及び相談役は、会長が委嘱する。

3 顧問及び相談役は、会議に出席し、助言することができる。

(顧問及び相談役の任期)

第8条 顧問及び相談役の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(総会)

第9条 総会は、必要に応じて会長が招集し開催する。

2 総会の議長は、会長が務める。

3 総会は、委員現在数の過半数の出席がなければ開くことができない。

4 総会の議事は、出席委員等の議決権の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

5 総会は原則として公開とする。ただし、総会を公開することにより公正かつ円滑な事業運営に支障が生じると認められる場合は、非公開で行うものとする。

(意見の聴取)

第10条 総会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(専門委員会、運営委員会及び関係機関調整会議)

第11条 協議会に専門委員会、運営委員会及び関係機関調整会議を置くことができる。

2 専門委員会、運営委員会及び関係機関調整会議の構成、所掌事項及びその他必要な事項は別に定める。

(財産及び会計等)

第12条 協議会の財産は、市支出金、寄附金品、財産から生じる収入、事業に伴う収入その他の収入をもって構成する。

2 協議会の財産は、会長が管理し、その方法は、総会の議決を経て別に定める。

3 協議会の会計年度は、4月1日から翌年3月31日までの期間とする。

(事業構想、事業実施計画及び予算)

第13条 協議会の事業構想、事業実施計画及びこれに伴う予算に関する書類は、会長が作成し、総会において、出席委員等の議決権の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。これを変更する場合も同様とする。

(事業報告及び決算)

第14条 協議会の事業報告及び決算は、会長が事業報告書として作成し、監事の監査を受け、総会において出席委員等の議決権の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(事務局)

第15条 協議会の事務を処理するため、事務局を設置する。

2 事務局は、鶴岡市市民部環境課及び自然学習交流館内に置く。

3 事務局には、事務局長、学芸員、事務局員及び会計事務責任者を置く。

4 事務局長、学芸員、事務局員及び会計事務責任者は、会長が任命する。

(備え付け書類)

第16条 事務所には、常に次に掲げる書類を備えておかなければならない。

- (1) この要綱
- (2) 委員名簿及び委員の異動に関する書類
- (3) 会長、副会長、監事及び職員の名簿
- (4) この要綱に定める機関の議事に関する書類
- (5) その他必要な書類

(その他)

第17条 この要綱に定めるもののほか、協議会に関して必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成23年7月11日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年6月7日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年4月17日から施行する。

附 則

この要綱は、平成28年4月20日から施行する。

附 則

この要綱は、平成29年4月20日から施行する。

附 則

この要綱は、令和2年3月27日から施行する。

3. 報告

(1) 事業経過報告

1. 来館者数 ***別紙①参照**

○2022年4月～2023年2月の入館者数:**23,395人** 稼働日数 284日(平日 177日、土日祝 107日)

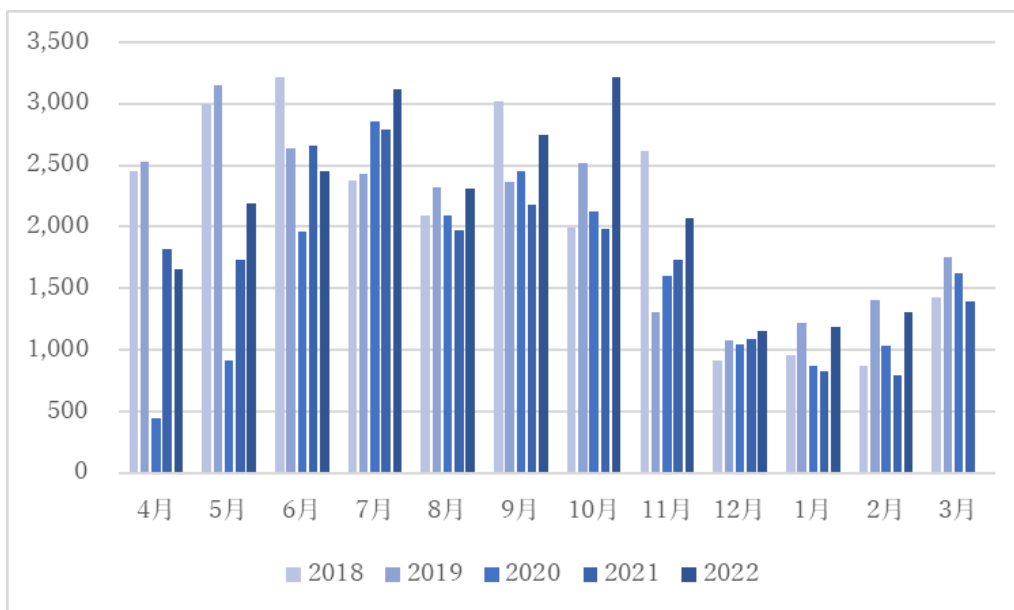
1日平均:82.4人、平日平均:65.3人、土日祝平均:110.6人

○2021年4月～2022年2月の入館者数:**19,574人**稼働日数 282日(平日 173日、土日祝 109日)

1日平均:69.4人、平日平均:60.7人、土日祝平均:83.2人

○開館からの来館者総数は、**277,711人**

*2018年～2022年度までの月別の来館者数のグラフを下記に示す。



2. 学習交流室

4月から2月まで 67団体(学習 42、研修8、会議 9、レクリエーション7、視察1)、1,131人

*2021年度4月～2月:55団体(学習 17、研修 11、会議 19、レクリエーション7、その他1)869人

年度	学習		研修		会議		レクリエーション		視察		その他	
	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022
4月	1	0	1	1	3	1		1		0		0
5月	1	3	1	0	3	2		0		1	1	0
6月	6	6		1	2	2		0		0		0
7月	1	7		0	3	1		1		0		0
8月	1	4		0	2	1		0		0		0
9月	2	7	1	1		0	2	0		0		0
10月	2	6	3	3	2	0	2	1		0		0
11月	1	3	2	2	3	0	2	4		0		0
12月	1	1	2	0		1	1	0		0		0
1月	1	2	1	0	1	0		0		0		0
2月		3		0	1	1		0		0		0
合計	17	42	11	8	22	9	7	7	0	1	1	0

3. イベント事業報告

(1) イベント

4月～2月までのイベント参加者:2,505名 **(別紙②参照)**

主な事業:保安全管理イベント:10回(216名)、観察会:13回(183名)、里地里山学:4回(93名)、ワークショップ:58回(1,284名)、都沢湿地ウォークラリー:101回(558名)、散策会:11回(97名)、学習会:1回(13名)その他:2回(61名)

*2021年度は1,649名

(2) 企画イベント

(2)-1. 都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！～

2020年度より、新型コロナウイルス対策を行いながら非接触で開催できるイベントとして、ウォークラリーを実施。散策しながら都沢湿地について知ってもらおう機会となった。

(2)-2. 自然観察会「早春の庄内アルプスを歩こう」

昨年秋の観察会に続き、庄内アルプス(草井谷～ほとりあルート)を歩く自然観察会を実施。

大変好評で、定員を上回る申し込みがあった。11月3日には、「紅葉の庄内アルプスを歩こう」も実施した。

(2)-3. 保安全管理イベント「家畜導入による湿地管理」

今年度、TOTO水環境基金の助成を受け、ヤギの導入による湿地管理や魅力発信事業を実施した。地域の木工の指導のもと、ヤギ小屋も建設した。ヤギの名前の公募を行い、「ほとべえ」に決定し、ヤギを通して多くの市民が湿地に興味関心をもつきっかけとなった。

(2)-4. ほとりあ 10周年来館スタンプカード

施設10周年記念として、来館するたびにスタンプがたまる「来館スタンプカード」事業を実施。約1550名の方にカードを発行した。スタンプがたまると回数に応じてどろっばのオリジナルグッズを進呈している。

(2)-5. ほとりあぬり絵コンテスト

施設10年の歩みをテーマに「どろっば」「ヤギのほとべえ」「ほとりあロゴマーク」を題材にぬり絵コンテストを実施。426枚の応募があり、入賞者の表彰式、作品展示を実施した。

(2)-6. コハクチョウの初飛来日あてコンテスト

応募数:299名(2021年度:234名)、正解者77名(正解は10月5日(水)、6日(木)下池)

*今年度より、正解者から抽選で選ばれた1名にコハクチョウのぬいぐるみとともに湯田川温泉の宿泊ペアチケット券を贈呈



ヤギのほとべえと保育園児



ぬり絵コンテスト授賞式

4. 館内展示

今年度は、都沢湿地の生きもの展や外来生物展示、現在は「ぬり絵コンテスト入賞作品」展を開催している。



企画展示「ぬり絵コンテスト入賞作品」展

5. 都沢湿地保全管理事業

(1) 通常管理

施設スタッフが年間を通じて、下池からの湿地への入水および湿地内の水位管理を行った。作業道および水路管理のための草刈りの実施。湿地内に生育する外来植物や陸地化の原因であるヤナギ、ノイバラは秋～春にかけて施設スタッフと有償事業者で伐採を実施中である。その他にも冬季水門の堆積物の除去などを実施予定。

(2) 保全管理イベント事業

今年度はこれまでの通常イベントに加え、昨年度に引き続き、マコモやヨシの刈り取りなど10回の活動を計画し、216名（1回あたりの平均21.6名）の方が活動に参加した。コロナ禍の中でも感染対策を検討し、昨年度よりも多くの方に活動に参加頂いた。

(3) 外来生物定期駆除

① 捕獲日数及びワナ数

5月15日～10月22日の期間に**45日間**、**4,974罫**を設置し、捕獲調査を実施。

(2021年度:5月13日～10月30日の期間に50日間、5,160罫)

② 捕獲結果

・【ウシガエル成体】**771個体**を捕獲。(2021年:992個体、2020年:623個体)

年間のCPUEは成体**0.16**(2021年:0.19、2020年:0.15)

・【ウシガエル幼体】**6個体**を捕獲。(2021年:0個体、2020年:24個体)

年間のCPUEは幼体**0.001**(2021年:0.00、2020年:0.01)

・【アメリカザリガニ】**14,702個体(大9,828個体、小4,874個体)**を捕獲。

(2021年:13,352個体、2020年:10,775個、)

全体CPUE**2.96**、大=1.98、小=0.98(2021年CPUE 2.59、大=1.08、小=1.51)

(4) 連携事業による管理

① 西郷土地改良区との共同作業

開館から毎年1回、西郷土地改良区と下池堤体内の外来植物駆除を実施している。今年度はアメリカセンダングサ、オオオナモミの生育が多数確認され、その駆除作業を行った。水位低下により外来植物の生育が促進されたものと考えられる。

②企業団体連携

例年に引き続き、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社山形テクノロジーセンターの生物多様性イベントを都沢湿地で開催した。また、今年度も朝陽ライオンズクラブ、そして鶴岡ライオンズからも保全管理イベントに参画いただいた。

③就労支援連携事業

2020年度から多機能型事業所いちほ（鶴岡市青柳町）と委託契約を結び、4～10月までの月1回の団体派遣を通じて集草作業など軽作業をお願いしている。

6. 外来生物活用プロジェクト

2014年度から駆除した外来生物を新たな地域資源として有効活用することを目的とした「外来生物活用プロジェクト（9年目）」事業を立ち上げ、地域飲食店に駆除個体を食材として提供している。今年度の提供店舗は、ビストロ・デ・ポン（三川町）の継続店の1店舗と、これまでザリガニ粉末事業店舗として協力頂いたラーメンダイニング晴天の風の2店舗に決定し、8月から食材の提供を行っている。また、昨年度に引き続き、アメリカザリガニの粉末化事業についても環境保全寄附金を活用し、遊佐町の加工業者に約20kgの粉末を作製いただいた。アメリカザリガニの粉末「ざりっ粉」の購入は、施設および産直あぐり、Ra-Men Dining 晴天の風でも購入が可能である。2020年度に引き続き、三川町の多機能事業所の協力で「ざりっ粉まんませんべい」を作成し、施設での販売を実施している。

7. 調査研究

(1)大山上池・下池及び都沢湿地の水質浄化に関する研究

調査者：山形大学農学部 助教 梶原 晶彦

(2)大山上池・下池及び都沢湿地における植生に関する研究

調査者：山形大学農学部 教授 林田 光祐

(3)湿地植生等ドローン撮影業務

調査者：フレームワークス写真事務所

8. 湿地攪乱

(1)都沢湿地攪乱業務

2023年3月に都沢湿地中央南側区域にて実施

9. サポーター活動

(1)サポーター数

2023年2月末現在のサポーター数は 109名（2022年3月末時点90名）。

2021年度よりサポーター制度の改正を行い、アクティブ会員101名、賛助会員8名（内団体1）となっている。

(2)サポーター券

2023年2月末現在のサポーター券は 682枚を発行。（2022年2月742枚）

2022年度 外部助成金事業

1. TOTO 水環境基金（実施中）

(1) 申請事業名

「市民参加型の湿地資源の活用と循環による持続的な湿地再生手法の検討」

(2) 採択額：780,000 円（申請額：789,400 円）

(3) 助成金該当事業

「湿地資源の活用と循環」をキーワードに家畜を飼育し、多様な世代が多様な目的で「楽しく」活動に参加し、持続可能な湿地再生活動を目指す。

- ・マコモ等の湿生植物の粉末開発およびモニター制度による料理の開発
- ・家畜の湿地管理（採草による除草）（5～10月）
（家畜小屋、ヤギレンタル費用及び保全活動参加者用手ぬぐい制作費）



市民参画によるヤギ小屋建設



完成したヤギ小屋とヤギを見る保育園児たち

2. 経団連自然保護基金（完了）

(1) 申請事業名「多様なステークホルダーの『理解と参画』による持続可能な低湿地の再生」

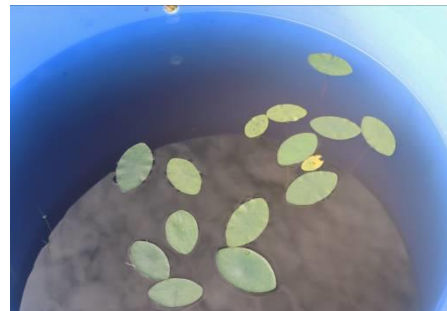
(2) 採択額：1,000,000 円（申請額：1,283,490 円）

(3) 助成金該当事業

市民参画による水生植物の活用（ヒシの刈り取り・活用事業）ゴムボートの購入人と湿地環境のかかわりの記録保存（写真のアーカイブ化）



ボートによるヒシ除去



下池の埋土種子から発芽したジュンサイ

3. 公益信託 荘内銀行ふるさと創造基金（完了）

(1) 申請事業名「市民参画による高館山の環境保全の可能性と環境教育の実践」

(2) 採択額：120,000 円（申請額：130,000 円）

(3) 助成金該当事業

高館山の春の植物 普及啓発冊子の作成

2022 年度 環境保全応援寄附金事業

2022 年度 寄附金事業の収支報告（2 月 28 日現在）

○繰越

・ 517,937 円

○入金

・ 627,768 円

	件数	金額	備考（内訳等）
個人	1 件	3,000 円	高橋睦 様
団体等	9 件	140,075 円	鶴岡ライオンズクラブ 様 鶴岡朝暘ライオンズクラブ 様 他 7 団体
協議会 事業等	—	312,734 円	自然観察会、里地里山学などの寄附制参加費等
寄附金箱 ※ほとりあ カウンター に設置	—	171,959 円	4 月 9,031 円 11 月 21,448 円 5 月 14,445 円 12 月 7,550 円 6 月 27,860 円 1 月 11,822 円 7 月 15,370 円 2 月 4,642 円 8 月 13,130 円 9 月 27,236 円 10 月 19,425 円
計	10 件	627,768 円	

○出金

・ 453,420 円

	件数	金額	備考（内訳等）
普及啓発物	0 件	—	
事業 支出	9 件	453,420 円	<ul style="list-style-type: none"> ・ だろっば着ぐるみ製作費（39,500 円） ・ ほとりあポロシャツ作成費（49,000 円） ・ 手ぬぐい製作費（38,740 円） ・ ザリガニ粉末加工料（100,000 円） ・ ざりっ粉まんませんべい（58,500 円） ・ ほとべえ、ロゴトートバック（31,680 円） ・ 生きもの供養祭お布施（10,000 円） ・ 書籍購入費（60,000 円） ・ だろっばと歩く都沢湿地（66,000 円）
計	9 件	453,420 円	

○現在残額

・ 692,285 円

○寄附金総額

・ 1,513,083 円（2023 年 2 月末）

(2)2022年度 庄内自然博物館構想推進協議会 収支決算(3月時点中間報告)

2022年度 庄内自然博物館構想推進協議会 鶴岡市補助金(支出見込みを含む3/20時点)

収 入

単位:円

項目	予算金額	決算金額	比較	備考
補助金(鶴岡市より)	15,418,000	15,418,000	0	協議会事業に対する補助金
雑収入(預金利息)	1,000	38	△ 962	
環境応援寄付金	80,000	0	△ 80,000	環境応援寄付金(ざりっ粉粉末加工料)
外部助成金	141,000	141,000	0	TOTO水環境基金(人件費)
合計	15,640,000	15,559,038	△ 80,962	

支 出

項目	予算金額	決算金額	比較	備考
(1)人件費	9,209,000	9,229,033	20,033	
(2)報償費	295,000	372,848	77,848	ボランティア等謝礼
(3)旅費	41,000	123,101	82,101	
(4)需用費	900,000	978,405	78,405	消耗品・食糧費・印刷製本費
(5)役務費	303,000	242,625	△ 60,375	通信料・手数料・保険料
(6)委託料	279,000	0	△ 279,000	
(7)補助金	4,613,000	4,470,894	△ 142,106	地域おこし協力隊(人件費・活動費)
合計	15,640,000	15,416,906	223,094	

収入決算額 15,559,038円 - 支出決算額 15,416,906円 = 142,132円 ※3/20時点中間(鶴岡市へ戻入予定)

2022年度 経団連自然保護環境基金(支出見込みを含む)

収 入

単位:円

項目	予算金額	決算金額	比較	備考
経団連自然保護基金	1,000,000	1,000,000	0	
雑収入(預金利息)	0	0	0	
合計	1,000,000	1,000,000	0	

支 出

項目	予算金額	決算金額	比較	備考
R04:多様なステークホルダーの『理解と参画』による持続可能な低湿地の再生				
(1)水生植物活用事業費	454,000	450,856	△ 3,144	ゴムボート購入費、償却費
(2)視察研修費	160,000	155,910	△ 4,090	旅費、レンタカー代
(3)普及啓発費	386,000	195,038	△ 190,962	ポジフィルムデジタル化等
合計	1,000,000	801,804	198,196	

収入 1,000,000円 - 支出 801,804円 = 198,196円 ※残金は経団連へ返金

2022年度 TOTO水環境基金

収 入

単位:円

項目	予算金額	決算金額	比較	備考
TOTO水環境基金	780,000	780,000	0	
雑収入(預金利息)	0	0	0	
合計	780,000	780,000	0	

支 出

項目	予算金額	決算金額	比較	備考
R04: 市民参加型の湿地資源の活用と循環による持続的な湿地再生手法の検討				
(1) 消耗品費	240,000	237,354	△ 2,646	胴長23個、ヤギ小屋作成費用
(2) 広報費	234,000	233,600	△ 400	手ぬぐい製作費、マコモパンフレット作成費
(3) 旅費交通費	62,000	60,740	△ 1,260	航空運賃代
(4) 人件費	141,000	141,000	0	協議会会計へ
(5) 賃借料	30,000	30,000	0	ヤギレンタル料 5,000円×6か月
(6) 講師謝金	40,000	40,000	0	ヤギ小屋建設及び ヤギ育指導料
(7) 調査費	33,000	33,000	0	マコモ粉末菌検査及び成分分析費
合計	780,000	775,694	△ 4,306	

収入 780,000円 - 支出 775,694円 = 4,306円 ※残金はTOTOへ返金

2022年度 公益信託 荘内銀行ふるさと創造基金

収 入

単位:円

項目	予算金額	決算金額	比較	備考
荘内銀行ふるさと創造基金	120,000	120,000	0	
雑収入(預金利息)	0	0	0	
合計	120,000	120,000	0	

支 出

項目	予算金額	決算金額	比較	備考
R04: 市民参画による高館山の環境保全の可能性と環境教育の実践				
(1) 普及啓発費	90,000	89,815	△ 185	高館山マップ作成費
(2) 講座謝金費	30,000	30,000	0	里地里山学講座 講師謝金
合計	120,000	119,815	△ 185	

収入 120,000円 - 支出 119,815円 = 185円 ※残金は荘銀へ返金

環境保全応援寄附金(2/28時点集計)

単位:円

収入		支出	
(1) 2022年度繰越	517,937	(1) 協議会事業	
(2) 団体・個人からの寄附	143,075	※外来生物活用PJIに関する費用 (ザリガニ粉末加工料)	100,000
(3) 寄付金箱による寄附(ほとりあ設置)	171,959	※同 事業周知啓発に関する費用 (ざりっ粉まんまんせんべい)	58,500
(4) イベント等での寄附	312,734	※施設開館10周年記念事業等に関する費用 (手ぬぐい製作費、どろっば着ぐるみ製作費 など)	127,240
	0	※その他 購入費等 (書籍購入費、トートバック、パンフレット製作費 など)	167,680
収入計	1,145,705	支出計	453,420

収入 1,145,705円 - 支出 453,420円 = 692,285円 ※2023年度への繰り越し(2/28時点)

中間監査報告書

2022（令和4）年度庄内自然博物館構想推進協議会の会計監査にあたり、収入支出に伴う中間収支報告書及び現金出納簿、収支関係証票、預金通帳を慎重に審査した結果、いずれも正確かつ適正であることを認めます。

令和5年 3月 24日

庄内自然博物館構想推進協議会
会長 櫻井 修治 様

庄内自然博物館構想推進協議会

監事 遠藤 誠 

監事 佐藤 保 

2018～2022年度 鶴岡市自然学習交流館ほとりあ 来館者状況推移

年度	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018	稼働日数	26	26	26	26	27	26	26	26	24	24	24	27	308
2019		25	26	26	26	27	26	26	26	24	24	25	26	307
2020		5	18	26	27	27	27	25	27	26	24	24	24	279
2021		26	27	25	27	26	26	26	27	25	24	25	24	308
2022		26	26	26	27	27	26	26	27	26	24	25	25	284
2018	来館者	2,452	2,997	3,219	2,371	2,093	3,019	1,996	2,611	919	958	871	1,429	24,935
2019		2,529	3,148	2,634	2,427	2,320	2,362	2,513	1,306	1,073	1,222	1,403	1,754	24,691
2020		440	917	1,961	2,860	2,095	2,451	2,127	1,604	1,604	870	1,038	1,620	19,027
2021		1,814	1,737	2,655	2,793	1,968	2,183	1,984	1,984	1,732	1,085	824	799	20,964
2022		1,660	2,194	2,450	3,116	2,307	2,742	3,210	2,073	1,149	1,184	1,310	1,310	23,395
2018	平均来館者	94.3	115.3	123.8	91.2	77.5	116.1	76.8	100.4	38.3	39.9	36.3	52.9	81.0
2019		101.2	121.1	101.3	93.3	85.9	90.8	96.7	50.2	44.7	50.9	56.1	67.5	80.4
2020		88.0	50.9	75.4	105.9	77.6	98.0	78.8	78.8	61.7	43.5	36.3	43.3	68.2
2021		69.8	64.3	106.2	103.4	75.7	84.0	73.5	73.5	69.3	45.2	33.0	33.3	68.1
2022		63.8	84.4	94.2	115.4	88.7	105.5	118.9	118.9	79.7	47.9	47.4	52.4	82.4
2018	平均来館者 (平日)	63.2	86.1	83.0	69.7	70.4	88.5	54.5	48.9	35.0	28.6	25.9	41.9	58.4
2019		73.0	84.8	70.7	81.7	78.1	76.2	71.2	37.6	36.3	35.2	45.3	59.4	62.5
2020		71.0	43.1	51.3	75.2	64.2	80.5	63.0	63.0	50.5	39.7	36.5	39.6	56.0
2021		60.1	61.7	93.8	83.0	74.1	76.5	67.5	67.5	44.1	38.1	31.4	30.8	59.9
2022		42.9	59.0	76.7	103.6	86.0	83.1	81.6	81.6	57.4	45.0	37.3	42.1	65.3
2018	平均来館者 (土日祝日)	144.1	162.0	200.9	125.6	94.4	148.3	118.8	197.7	43.8	58.8	53.7	69.0	118.9
2019		143.4	163.4	150.3	115.3	99.3	110.3	137.4	70.4	61.5	77.1	72.3	80.3	108.7
2020		113.5	66.7	129.6	158.3	80.7	124.3	110.3	110.3	76.9	51.1	35.9	48.3	87.6
2021		88.1	67.2	132.5	133.2	78.3	95.9	82.2	107.0	59.5	35.7	36.8	57.4	81.3
2022		97.4	114.0	133.6	132.5	93.9	141.2	173.1	115.5	53.6	65.2	70.7	70.7	110.6

2022年度 イベント参加状況

No.	月 日	曜日	イベント区分	イベント名	参加者数 (名)
1	4月	土日祝	ウォークラリー	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙第23弾（9回開催）	81
2	4月2日	土	散策会	春のほとりあ散策会	6
3	4月3日	日	散策会	春のほとりあ散策会	9
4	4月6日	水	散策会	春のほとりあ散策会	7
5	4月9日	土	自然観察会	早春の庄内アルプスを歩こう	27
6	4月9日	土	散策会	春のほとりあ散策会	4
7	4月10日	日	散策会	春のほとりあ散策会（高館スポーツクラブ）	26
8	4月13日	水	散策会	春のほとりあ散策会	5
9	4月16日	土	自然観察会	すみれ観察会	14
10	4月17日	日	散策会	春のほとりあ散策会	5
11	4月20日	水	散策会	春のほとりあ散策会	5
12	4月23日	土	散策会	春のほとりあ散策会	9
13	4月30日	土	ワークショップ	水辺のいきものみつけ	24
14	5月	土日祝	ウォークラリー	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙第24弾（10回開催）	72
15	5月1日	日	ワークショップ	簡単ペーパーログづくり	8
16	5月1日	日	ワークショップ	どろっば木メダル	13
17	5月1日	日	ワークショップ	どろっばタンブラー作り	9
18	5月3日	火	ワークショップ	水辺のいきものみつけ②	18
19	5月4日	水	ワークショップ	マコモの石けんづくり	22
20	5月4日	水	ワークショップ	下池でボート遊び（風強い為都沢湿地の池に変更）	52
21	5月5日	木	ワークショップ	下池でボート遊び	55
22	5月5日	木	ワークショップ	ストーンデコパージュづくり	32
23	5月5日	木	ワークショップ	アメリカザリガニのストラップづくり	28
24	5月7日	土	自然観察会	ギフチョウの卵を探そう	13
25	5月7日	土	散策会	春のほとりあ散策会	11
26	5月7日	土	ワークショップ	簡単ペーパーログづくり	5
27	5月7日	土	ワークショップ	ヤギと湿地散歩	25
28	5月7日	土	ワークショップ	湿地の植物で母の日の花束作り	5
29	5月14日	土	保全管理イベント	外来生物捕獲大作戦①	17
30	6月	土日祝	ウォークラリー	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙第25弾（7回開催）	43
31	6月11日	土	保全管理イベント	親水水路の草刈り	20
32	6月12日	日	保全管理イベント	マコモの刈取りとマコモ茶作り	12
33	6月18日	土	保全管理イベント	ミスアオイの生育場所作りとミスアオイの移植	13
34	6月25日	土	ワークショップ	ザリガニストラップづくり	17
35	6月25日	土	ワークショップ	消しゴムハンコでオリジナルグッズづくり	28
36	7月	土日祝	ウォークラリー	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙第26弾（10回開催）	49
37	7月2日	土	自然観察会	トンボ観察会	10
38	7月2日	日	保全管理イベント	マコモの刈取りとマコモ茶作り	9

No.	月日	曜日	イベント区分	イベント名	参加者数 (名)
39	7月8日	金	自然観察会	ハイクボタル調査体験	8
40	7月9日	土	自然観察会	湿地でメダカを探そう	10
41	7月9日	土	学習会	サポーター勉強会「小学生が考える地域のPR法」	13
42	7月16日	土	ワークショップ	観蓮会	47
43	7月16日	土	ワークショップ	ハスの葉でお茶づくり	3
44	7月16日	土	ワークショップ	ハスの果托のクラフトづくり	6
45	7月17日	日	ワークショップ	どろっば池の水をぬく	33
46	7月23日	土	保全管理イベント	外来生物捕獲大作戦②	36
47	7月23日	土	里地里山学講座	大山上池下池の水質の変遷と浄化への取り組み	12
48	7月23日	土	自然観察会	夜のどきどきハイク	19
49	8月	土日祝	ウォークラリー	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙第27弾（8回開催）	27
50	8月6日	土	その他	チーム対抗アメリカザリガニ捕獲大作戦	19
51	8月11日	木	ワークショップ	トンボクリップづくり	16
52	8月11日	木	ワークショップ	木のペンダントづくり	20
53	8月20日	土	ワークショップ	湿地のいきもの探検隊	15
54	8月21日	日	自然観察会	夏の星座鑑賞会	13
55	9月	土日祝	ウォークラリー	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙第28弾（10回開催）	44
56	9月3日	土	保全管理イベント	大山下池の外来植物駆除	32
57	9月10日	土	ワークショップ	ほとべえと湿地散歩	2
58	9月10日	土	ワークショップ	秋の下池でボート遊び	19
59	9月10日	土	ワークショップ	ストーンデコパージュづくり	12
60	9月10日	土	ワークショップ	トンボクリップづくり	8
61	9月11日	日	ワークショップ	ほとべえと湿地散歩	10
62	9月11日	日	ワークショップ	秋の下池でボート遊び	51
63	9月17日	土	保全管理イベント	都沢湿地の外来植物駆除	25
64	9月24日	土	ワークショップ	アメリカザリガニを捕まえて食べる会	24
65	10月	土日祝	ウォークラリー	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙第29弾（11回開催）	72
66	10月1日	土	保全管理イベント	都沢湿地の草刈り集草	27
67	10月1日	土	自然観察会	都沢湿地周辺のトンボたち	14
68	10月15日	土	自然観察会	カモのねぐら立ち観察会	9
69	10月16日	日	ワークショップ	外来生物ミニラーメンの販売	75
70	10月16日	日	ワークショップ	焼きマシュマロづくり	80
71	10月16日	日	ワークショップ	消しゴムハンコでポストカードづくり	35
72	10月16日	日	ワークショップ	丸太切り体験	30
73	10月22日	土	保全管理イベント	ヨシ刈り取り&ヨシぼちづくり	25
74	10月29日	土	散策会	秋の散策会	10
75	10月29日	土	里地里山学講座	高館山の歴史と魅力	32
76	10月30日	日	ワークショップ	どろっばになりきって湿地をまわろう	6
77	11月	土日祝	ウォークラリー	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙第30弾（10回開催）	64
78	11月3日	木	自然観察会	紅葉の庄内アルプス	22
79	11月13日	日	ワークショップ	オニグルミのストラップづくり	16
80	11月13日	日	ワークショップ	オニグルミのペンダントづくり	17

No.	月 日	曜日	イベント区分	イベント名	参加者数 (名)
81	11月19日	土	ワークショップ	木の枝でトナカイとサンタクロースを作ろう	22
82	11月19日	土	ワークショップ	松ぼっくりでクリスマスツリーを作ろう	26
83	11月19日	土	ワークショップ	絵本の読み聞かせと焼きマシュマロづくり	19
84	11月26日	土	ワークショップ	湿地の恵みファーム大豆からきな粉づくり	9
85	12月	土日祝	ウォークラリー	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙第31弾（8回開催）	27
86	12月3日	土	ワークショップ	ほとりあ☆クリスマス瓶づくり	18
87	12月4日	日	ワークショップ	マコモリースづくり	23
88	12月10日	土	ワークショップ	絵本の読み聞かせと焼きマシュマロづくり	20
89	12月17日	土	ワークショップ	消しゴムハンコでポストカード	11
90	12月17日	土	ワークショップ	ヨシストローづくり	11
91	12月17日	土	ワークショップ	薪ストーブdeオリジナルポップコーンづくり	14
92	12月17日	土	ワークショップ	松ぼっくりでバードケーキづくり	12
93	1月	土日祝	ウォークラリー	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙第32弾（9回開催）	32
94	1月7日	土	ワークショップ	毛糸でウサギのボンボンしっぽづくり	23
95	1月7日	土	ワークショップ	いろんな美でコマづくり	30
96	1月7日	土	ワークショップ	湿地の植物で魔法のほうきづくり	7
97	1月8日	日	ワークショップ	ほとりあ周辺で干支のウサギを探してみよう	9
98	1月14日	土	ワークショップ	絵本の読み聞かせと焼きマシュマロづくり	38
99	1月14日	土	その他	ほとりあ新春ミニコンサート	42
100	1月15日	日	里地里山学特別講座	ガンのいる風景をもう一度	33
101	2月	土日祝	ウォークラリー	都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙第33弾（9回開催）	47
102	2月4日	土	自然観察会	猛禽類観察会	11
103	2月4日	土	ワークショップ	湿地の恵みファーム無農薬大豆のお味噌づくり	20
104	2月11日	土	ワークショップ	絵本の読み聞かせと焼きマシュマロづくり	32
105	2月12日	日	里地里山学特別講座	北海道央地域の未保全湿地の現状と利活用の取り組み	16
106	2月18日	土	ワークショップ	クロモジの香り袋づくり	5
107	2月18日	土	ワークショップ	ハードコールづくり	13
108	2月18日	土	ワークショップ	湿地の恵みファームの大豆を使った豆乳プリン	14
109	2月19日	日	自然観察会	ほとりあ周辺の冬芽観察会	13
110	2月23日	祝日	ワークショップ	竹あかりづくり	42

合計：2,505人（2021年度 1,649人）

イベント企画数：110回

2022年度 庄内自然博物館構想事業のテレビ放映及び新聞雑誌掲載

(1) テレビおよびラジオなど放映

No	月日	テレビ局	番組名	タイトル名
1	9月16日	FMやまがた	マジフラ	ミズアオイの開花情報
2	9月28日	TUY	Nスタやまがた	SDGs「外来生物活用」
3	10月7日	YBC	お昼のニュース	コハクチョウの初飛来
4	10月14日	FMやまがた	マジフラ	コハクチョウの飛来状況
5	3月1日	FMえどがわ	ふるさと印 鶴岡	ほとりあの取り組み紹介

(2) 新聞・雑誌掲載

2022年5月8日
庄内日報



アメリカザリガニのはさみでストラップ作りを楽しむ親子

ザリガニでストラップ

「子どもの日」親子で楽しく

鶴岡

鶴岡市馬町の自然学習交流館ほとりあ(量産均館長)で5日、「子どもの日」に合わせたワークショップ「ザリガニストラップづくり」が行われた。県内外から訪れた親子連れが、アメリカザリガニのはさみでオリジナルのストラップ作りを楽しんだ。

ほとりあは先月、開館10周年を迎えた。当初から周辺の都沢湿地、ラムサール条約登録湿地の上池、下池の環境を保全しようと、ア

メリカザリガニなどの外来生物駆除活動に力を入れている。駆除したザリガニを使った工作は以前から開催しており、子どもたちの人気イベントとなっている。

この日は、親子約50人が参加。長さ5センチほどのアメリカザリガニのはさみに、親子でさまざまな色のマニキュアを塗り付け、パリエーション豊かな世界に一つしかないオリジナルのストラップを作った。小学1年の子どもと訪れた井上美紀

さん(44)「鶴岡市柝屋」は「子どもがザリガニのストラップに興味があって、楽しそうに作っていて良かった。また参加してみたい」と話した。

10周年記念のイベントで、都沢湿地再生のイメージキャラクター「どろっば」の着ぐるみとの記念撮影会や、じゃんけん大会も開かれ、盛り上がりを見せた。

14日(土)には湿地保全管理イベントとして、外来生物捕獲大作戦が午前9時から同館で開催される。都沢湿地のアメリカザリガニやウシガエルを網などで捕獲する。捕った生き物は持ち帰り可能。

申し込みは12日(木)まで。問い合わせは同館☎電02335(33)8693☎へ。

利用状況把握へ、鶴岡市がアンケート

登ったことある？ 高館山の遊歩道

維持管理の検討材料に

大山下池から望む高館山―鶴岡市大山



鶴岡市西部の高館山（273㍎）の遊歩道について、市は認知度・利用状況のアンケートを行っている。林野庁から借り受けている管理を検討するための調査。地元の大山地域の住民はもちろん、自然観察・散策の場として市外から訪れる愛好家もあり、幅広く意見を募る。

かつて幕府の天領だった高館山。市街地に近い里山だが、ブナなどの自然林が保たれている。国有林内のレクリエーション森林エリア「自然休養林」に指定され、麓にはラムサール条約登録湿地の大山上池・下池を抱える。比較的登りやすい低山でありながら、多様な自然環境と動植物を身近に感じられる魅力がある。アンケートは回答者の属性を含む12問。自然休養林としての認知度や、遊歩道の利用時期・頻度・目的などを尋ねる。遊歩道11コースを示し、全体的な利用状



回答フォームのQRコード

況を把握する考え。遊歩道を巡っては、国側での維持管理が難しくなっているとして、庄内森林管理署と市側との協議が行われてきた。一部は以前から市が管理している。市環境課は「管理・整備の在り方や必要性を考える材料にしたい」としている。主に市ホームページのアンケート回答フォームで受け付けている。期限は6月19日まで、問い合わせは同課0235（35）1224（三浦光晴）

鶴岡・自然 学習交流館

ヤギ1匹放てば番人

鶴岡市の庄内自然博物館構想推進協議会は本年度、同市自然学習交流館ほりとあで、ヤギ1匹を期間限定で飼育する。ヤギを迎えるのは今月下旬ごろで、同館は愛称を募集している。

同市大山地区の都沢湿地の保全管理、魅力発信につなげようと、初めて企画した。湿地にはびこる外来植物をヤギに食べてもらうことで、陸地化を防ぐのに貢献してもらうほか、ヤギを見るために、市内外から多くの人が同館を訪れることも期待できるといふ。

ヤギは4歳の雄で、同市内の農家から預かる。ヤギの活動を依頼する期間は10月ごろまでを予定している。職員やボランティアなどで、ヤギ用の小屋を造るなどして準備を進めている。

市民に親しみを持って接してもらおうと、同館ではヤギの名前を募集している。専用のQRコードで20日まで申し込む。名前を投票してもらった人の中から



ヤギの名前の投票用QRコード

都沢湿地の草食べます 期間限定飼育、愛称募る

ら抽選で10人にヤギのオリジナルグッズをプレゼントする。問い合わせは同館0235（33）86993。



鶴岡市自然学習交流館ほりとあで飼育予定のヤギ（同館提供）

記者の目 生態系保全前進に期待

自然学習交流館ほりとあは今年のゴールデンウィークに、ヤギと湿地を散策するイベントを開催した。一目見ようと訪れた利用客が多かったという。ヤギとの触れ合いをきっかけに、ほりとあが進める湿地生態系保全の取り組みが、さらに前進することを期待したい。（根本光輝）

略称「S-NaM」にロゴマーク投票も
自然博物館構想推進協議会では今年3月に公式略称を「S-NaM」に決定した。庄内の「S」、ネーチャー（自然）の「Na」、ミューズ（自然）の「M」からそれぞれ盛り込んだ。略称の設定に合わせ、四つのロゴマークデザイン案を創作。候補から選んでもらう投票も30日まで受け付けている。投票は上のQRコードから。選ばれたデザインに投票した人の中から、10人にオリジナルグッズをプレゼントする。



2022年6月3日
 荘内日報

ロゴマーク投票募る

庄内自然博物館
 鶴岡市の庄内自然博物館 構想推進協議会（櫻井修治会長）が公式略称のロゴマークを決めるための投票を行っている。

同協議会は大山地域の都沢湿地や上池・下池の自然と市民が触れ合う機会を増やそうと2011年に設立された。名称を覚えやすくするため、今年3月に「S-NaM（エスナム）」と公式略称を決定した。「Shonai（庄内）Nature Museum（自然）Museum（博物館）」の英語表記から採用した。

ロゴマークの候補4つは同協議会スタッフがデザインしたもの。いずれも「水」とShonaiの頭文字「S」をモチーフにしているという。採用されたデザインに投票した人の中から10人にロゴグッズが贈られる。候補ロゴマーク閲覧と投票はURL=https://onl.bz/1oct9MT=>。近々ホームページにも掲載される。投票期間は6月30日（木）まで。問い合わせは自然学習交流館ほとりあへ。電02335(33)8693へ。

【ロゴマーク案】

デザインA	デザインB	デザインC	デザインD
			
S-NaM Shonai Nature Museum Design Council	S-NaM Shonai Nature Museum Design Council	S-NaM Shonai Nature Museum Design Council	S-NaM Shonai Nature Museum Design Council



本購入に役立ててほとりに4万円

鶴岡の2LCが寄付

来館者用の図書購入に役立ててもらおうと、鶴岡市内二つのライオンズクラブ（LC）は16日、市自然学習交流館ほとりに寄付金計4万円を贈った。写真。善意を届けたのは、鶴岡朝陽LC（佐藤誠会長）と鶴岡LC（西川俊行会長）。同館は同市大山地区の都沢湿地の保全管理などを通じて、生態系の学習を推進している。2LCは、利用者が環境学習を学べる

2022年6月18日
 山形新聞

書籍が不足していると考へ、寄付金を贈ることにした。

同館で贈呈式が行われ、佐藤会長が桜井修治庄内自然博物館構想推進協議会長に、西川会長が同館の富樫均館長にそれぞれ目録を手渡した。佐藤会長は「幅広い世代の人が環境について学ぶための助けにしたい」と、西川会長は「まだまだ本の量が不足しているので、役立ててほしい」とそれぞれ話していた。

（根本光輝）

「ほとべえ」だよ

ほとりあ 大使 ヤギの名前決まる PR大

鶴岡市馬町の自然学習交流館ほとりあ(富樫均館長)で飼われているヤギの名前が「ほとべえ」に決まった。応募総数238通の中から名付け親になったのは朝陽二小2年の曾根悠雅君



湿地生態系PR大使ヤギの「ほとべえ」

(8)と一般成人女性1人。曾根君はほとりあの「ほと」とかわいらしいと思ったから「べえ」を組み合わせて付けたという。5歳のほとべえは体高約1尺、体重約50キの雄。とても人懐っこい性格で、ほとりあの人気者となってい

る。初めはほとりあのそばにある「都沢湿地」内の草を食べてもらうため、今年6月下旬から飼い始めたが、ほとべえを通して市民が湿地の生態系に興味をもってもらうためのPR大使としても期待しているという。「ほとべえ」は10月上旬に持ち主のコトブキハウス(鶴岡市)代表・佐久間麻都香さんのところに帰るまでの間、湿地の魅力を伝える。ヤギ導入は「第17回TOTO水環境基金」の助成を受けて実施された。寝床の小屋は伊藤建築工房(同市熊出、伊藤治矢代表)の建築指導協力を受けて建てられた。

2022年9月8日

山形新聞

ミズアオイこんなに

鶴岡の「ほとりあ」
復活プロジェクト



見頃を迎えている準絶滅危惧種のミズアオイ
＝鶴岡市自然学習交流館ほとりあ

環境省のレッドリストで準絶滅危惧種に指定されているミズアオイが、鶴岡市自然学習交流館ほとりあで見頃を迎えている。淡い紫色の花弁が訪れた人たちを楽しませている。

ミズアオイは万葉集で詠まれるなど古くからある植物で、全国の水田で見られた。しかし、近年は除草剤や農薬の影響で姿を消している。同市大山地区の都沢湿地で2010年に確認さ

れ、同館では昨年から建物の脇に移植して復活プロジェクトに取り組んでいる。今年6月には市民約20人と生育環境を整えた。同館のカフェコーナーから約100株のミズアオイが楽しめる。

同館の富樫均館長は「日本に昔からある貴重な植物を見に来てほしい」と話した。見頃は今月半ばごろまでだが、早めの来館を呼び掛けている。
(高橋直大)

2022年9月10日

荘内日報

青紫のかわいらしい花見頃 鶴岡・ほとりあで「ミズアオイ」



湿地などに咲く花「ミズアオイ」が8日、鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」（富樫均館長）で見頃を迎えている。青紫色のかわいらしい花弁が

見頃を迎えた準絶滅危惧種のミズアオイ

求愛の詩が詠まれているほど古くからある植物で、国内では北海道から九州まで各地に分布する。かつては水田近くの水路などで見られたが、近年は除草剤などの影響で姿を消しつつあり、準絶滅危惧種に指定されている。2010年に大山地区の都沢湿地で同館職員らが発芽を確認した。昨年に施設脇の湿地に移植し、カフェコーナーからも眺めることができる。6月にはほとりあ市民サポーター約20人と生育環境作りが行われるなど、同館はミズアオイの復活プロジェクトに取り組んでいる。見頃は今月半ばまで。



鶴岡で日本生物学オリンピック

全国のスーパージニア生集う

生物学の「スーパージニア生」が集い難問に挑む全国大会「日本生物学オリンピック」本選2022鶴岡大会が17-19日の3日間、鶴岡市の市先端研究産業支援センターと県立鶴岡中央高を会場に行われた。予選を通過し全国から集まった若き精鋭たちが、理論と実験問

題で知識を競った。

測定など実験試験があった。

生物学の「スーパージニア生」が集い難問に挑む全国大会「日本生物学オリンピック」本選2022鶴岡大会が17-19日の3日間、鶴岡市の市先端研究産業支援センターと県立鶴岡中央高を会場に行われた。予選を通過し全国から集まった若き精鋭たちが、理論と実験問

題で知識を競った。

測定など実験試験があった。

国際生物学オリンピック日本委員会が主催し、大学入学前の20歳未満を対象に毎年実施している。本年度は約3500人がオンライン予選に参加し、成績上位80人（うち中学生3人）が本選に進んだ。県内からの本選出場者はいなかった。17、18日に理論と実験の大問3題（約2時間ずつ）に挑み、19日に成績発表の閉会式が行われた。生物学全般に関する高度な理論試験、実験動物の胚の移植やRN A（リボ核酸）の濃度測定、酵素活性を利用した乳酸量

総合や理論、実験ごとの成績上位者に特別賞が贈られたほか、総合1-10位に金賞、11-20位に銀賞、21-40位に銅賞が贈られた。高校2年生以下のうち上位12人（うち中学生1人）が来年の国際大会の日本代表候補に選ばれた。

全国から集まった中高生たちが日本生物学オリンピック本選で理論問題に臨んだ17日、鶴岡市先端研究産業支援センター・レクチャールホール

国際生物学オリンピック日本委員会が主催し、大学入学前の20歳未満を対象に毎年実施している。本年度は約3500人がオンライン予選に参加し、成績上位80人（うち中学生3人）が本選に進んだ。県内からの本選出場者はいなかった。17、18日に理論と実験の大問3題（約2時間ずつ）に挑み、19日に成績発表の閉会式が行われた。生物学全般に関する高度な理論試験、実験動物の胚の移植やRN A（リボ核酸）の濃度測定、酵素活性を利用した乳酸量

総合や理論、実験ごとの成績上位者に特別賞が贈られたほか、総合1-10位に金賞、11-20位に銀賞、21-40位に銅賞が贈られた。高校2年生以下のうち上位12人（うち中学生1人）が来年の国際大会の日本代表候補に選ばれた。

（17）のクラゲや顕微鏡、微生物をモチーフにしたデザインが選ばれた。大会中は出題解説や、鶴岡の生物にちなんだ加茂水族館、自然学習交流館ほどりあの体験ツアーも行われ、生物学のスーパージニア生たちが鶴岡の地で交流を深めた。

アメリカザリガニ初体験



鶴岡市大山下池ほとりの同市自然学習交流館（富樫均館長）では24日、外来種のアメリカザリガニを捕まえて食べる会を開いた。生態系に悪影響を与えるアメリカザリガニは駆除対象。当日は雨のため都沢湿地で捕まえる代わりに、泥拔きしたアメリカザリガニを水槽で捕まえ、塩ゆでにして食べた。初体験の碓谷怜くん（遊佐町立高瀬小4年）は「エビみたいな味でおいしい。また食べた」と話した。

冬の使者コハクチョウ 大山・上池下池に初飛来 — 昨年より2日遅い 例年並み —

鶴岡市の大山上池・下池に今年もコハクチョウが飛来した。5日の日没後となる午後5時40分に市自然学習交流館ほとりあの職員が確認した。昨年（10月3日）より2日遅いものの、例年並みの飛来という。ほとりあによると5日は下池に13羽の着水を確認。日没後のため成鳥と幼鳥の区別はできなかった。翌6日午前4時45分、下池で89羽（幼鳥4羽）を確認し、さらに同5時半まで19羽が飛来して計108羽となった。



今年もコハクチョウが飛来した＝6日午前6時ごろ、ほとりあサポーターの和田亮さん撮影

た。同5時50分に66羽が南に飛び立ち、同6時には15羽が庄内平野に向かった。残りの27羽が池に残っている。一方上池は6日午前6時半に25羽が確認された。ほとりあでは「今年も無事に来てくれた。初飛来はいつも少なめだが今年はずっとまった数。冬の訪れを感じながら見守ってほしい」と話した。ほとりあが行っている「コハクチョウの初飛来日あて2022コンテスト」は299人の応募があった。コンテストは「日没後は翌日が初飛来」と規定されており、今回の初飛来は5日の日没後だったが、日没直後だったこともあり5日と予想した42人、6日予想の36人の計78人を正解とした。正解者にはコハクチョウのオリジナルポストカードをプレゼントするほか、抽選で1人にコハクチョウのオリジナルぬいぐるみと単人旅館（湯田川温泉）のペアチケットが贈られる。



冬の使者今季初飛来
コハクチョウ

初飛来したコハクチョウ（6日、鶴岡市の大山下池で）＝和田亮さん撮影

鶴岡市の大山下池に5日夕、冬の使者・コハクチョウが今季初めて飛来した。市自然学習交流館「ほとりあ」の上山剛司学芸員が5日午後5時40分、13羽のコハクチョウが下池で羽を休めているところを確認した。昨年より2日遅い。

6日に改めて確認したところ、午前5時半までに計108羽が飛来。近くに住む同館サポーターの和田亮さん(69)が休んでいる様子などを撮影した。

同館は今季、ラムサール条約登録湿地の大山上池・下池にコハクチョウが初飛来する日を当てるコンテストを実施。規定では、日没後は翌日を初飛来の日にする必要があるが、確認が日没直後だったため、5、6の両日を正解と決めた。正解者数は計78人で、コハクチョウのオリジナルグッズが贈られる。

トッピングは…

ウシガエル

アメリカザリガニ

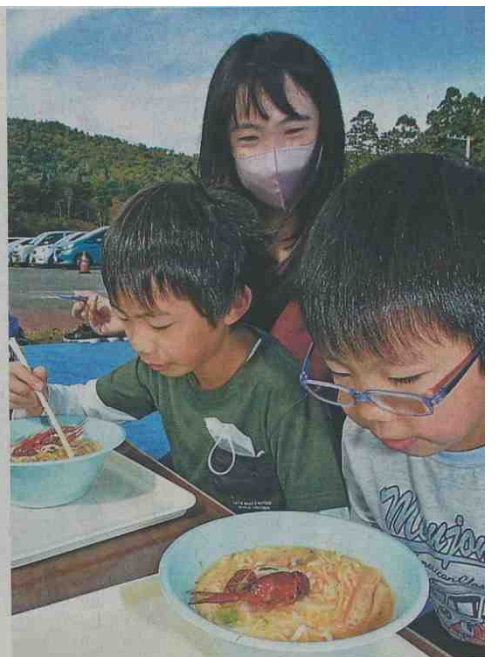
市内の「ラーメンダイニング 晴天の風」の協力を得て、環境保全への寄付金600円以上を寄せた来場者に振る舞った。塩とんこつスープにガリッパターでソテーしたカエルの脚と、塩ゆでしたザリガニをトッピング。酒田市から家族で訪れた松原小3年 菅原優君(8)は「ザリガニはエビ、カエルは鶏肉みたいでおいしい」と笑顔で味わっていた。

行政や地域の自然保護団体

「鶏肉、エビみたい」

鶴岡で外来生物ラーメン提供

鶴岡市大山区の都沢湿地で駆除されたウシガエルとアメリカザリガニを使った「外来生物ラーメン」を提供するイベントが16日、近くの市自然学習交流館ほとりあで開かれた。



「外来生物ラーメン」を味わう来場者＝鶴岡市自然学習交流館ほとりあ

やまがた
ニュース

解説

県内の外来生物

生物多様性消失の一要因

駆除続け減少した例も

対応先送りせず「足元」注視

生態系に大きな影響を与えかねない外来生物。本県では近年、確認が続いている外来生物もいて、自然環境を注視していかねければならない状況だ。一方、厄介者として社会的に問題となつている外来種の駆除や調査を続け、外来種の密度低下が見られた事例もある。身近にある、深刻な外来種問題について、真剣に考えていく必要がある。

中国などが原産で1990年代から関東地方で増えている特定外来生物の「アカボシゴマダラ」が近年、本県でも確認されている。山形市の民家敷地内では今年9月に見つかった。幼虫の餌となるエノキの葉が特定の在来種と競合する。特定外来生物は生きたままの運搬のほか、飼育や栽培が禁止されている。

外来生物の代表格といえるのがウシガエルやアメリカザリガニだ。ウシガエルは大正時代、食用を目的にアメリカから輸入され、アメリカザリガニはその餌として昭和初期に日本に入ってきた。ど

ちらも全都道府県で確認されている。鶴岡市大山地区の都沢湿地では、ウシガエルとアメリカザリガニの駆除や調査が行われている。周辺に高館山、上池・下池があるエリアだ。湿地すぐそばの市自然学習交流館ほとりあが中心となり、施設がオープンした2012年度から取り組んでいる。

わな設置による数や大きさ、食べたものの定期調査を続けており、昨年度は延べ約5千個のわなを

を設置。ウシガエル約千匹、アメリカザリガニ約1万3千匹を捕獲した。捕獲数をわなの総数で割った「一つのわな当たりの捕獲数(CPUE)」の推移はグラフの通り。両者とも減少傾向にあり、アメリカザリガニは小型化している。他にイベントを通して駆除したり、玄關にボックスを置き、来館者が湿地で捕獲した外来種を回収したりしている。駆除したものは市内外の料理店に提供したり、ザリガニは粉末にしたものを販売したり

して命を無駄にせずいたぐくぐくも伝えていく。5年ほど前からは湿地を柵などで区切って外来生物排除区域を設定し、動植物の回復にも取り組み、水生生物の確認作業を続けている。学芸員の上山剛司さん(41)は「現状の努力を続けられれば、かつてすんでいた生き物で、戻ってくる種があるかもしれない。また、人と湿地の新たな関係が生まれることに期待したい」と話す。

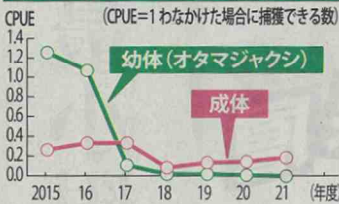
「外来生物によって在来生物に影響が出ることは気候変動、休耕地の増加、人による里山の開発などと併せ、生物の多様性の消失の一つの要因となる」と話すのは自然写真家で生態系などにも詳しい永幡嘉之さん(49)。「山形市」。「生物多様性が失われると、これまで当たり前前に存在していた生態系サービスがなくなる」と強調する。具体的には海で魚を捕る、山の木材を利用するといったことができなくなるとのことだ。特定の虫が大発生したり、逆に消えていったりすれば、昆虫による受粉で成り立っていた植物にも影響が出る。何もしくても受粉ができなかった生態系の恩恵を受けられなくなる時がやってくるという。

永幡さんは「これらの問題は、今すぐわれわれが危機的状況に陥ることではなく、また対策の成果が出るのに時間がかかるため、問題を認識していながらも対応を先送りにしがちだ」と指摘する。生物多様性消失の先にあるものは何か。足元の自然環境に目を向けて考える時が来ているのではないだろうか。

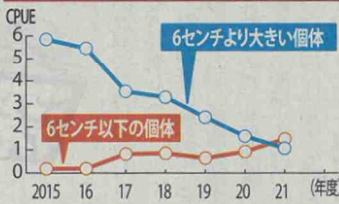


報道部
大滝 玲

都沢湿地のウシガエル捕獲数の推移 (CPUE=1 わなかけた場合に捕獲できる数)



都沢湿地のアメリカザリガニ捕獲数の推移



左奥の建物がほとりあ
|| 鶴岡市

外来生物対策が進められている都沢湿地。

2022年11月18日

山形新聞

鳥インフル疑い初確認

鶴岡 コハクチョウの死骸から

県は17日、鶴岡市内で回収された野生のコハクチョウ1羽の死骸から、鳥インフルエンザウイルスが検出されたと発表した。県内で高病原性鳥インフルエンザ

の疑いがある個体が発見されたのは初めて。県は5段階の警戒レベルを4に引き上げ、監視を強化する。環境省と県によると、鶴岡市内の池で11日、環境省の職員が死骸を回収した。コハクチョウは渡り鳥。簡

易検査では陰性だったが、国立環境研究所で行った遺伝子検査で「H5亜型鳥インフルエンザ」の陽性が分かった。17日に県へ報告があった。病原性は未確定で、確定検査の結果は18日以降に判明する見通し。環境省は回収地点から半径10キロ圏内を野鳥監視重点区域に指定。県は区域内で野鳥の大量死が発生していないかなどの監視を強

化する。県内の養鶏場で異常は確認されていないという。9月以降、宮城、新潟といった隣県を含む全国各地で、野鳥から鳥インフルエンザウイルスが検出され、高病原性と確定するケースが相次いでいる。県は宮城県での確認事例を受け、先月7日に警戒レベルを5段階の3に引き上げていた。(伊豆田拓)

2023年1月17日

荘内日報

ほとりに響く歌声 新春ミニコンサート

— 鶴五中合唱部など出演 —

鶴岡市馬町の市自然史博物館「ほとりにあ」で14日、新春ミニコンサートが行われ、訪れた親子連れが合唱や楽器演奏に聴き入った。



木のぬくもりがあふれる館内で音楽イベントを楽しんでおろつと、ほとりにあでは毎年冬にコンサートを開催している。今回は鶴岡第五中学校の合唱部、鶴岡を拠点に活動しているギター弾き語りファミリー「スターバース」、多国籍楽器演奏ユニット「シメントリリス」の3グループが合わせて15曲を演奏した。このうち鶴岡五中合唱部は女子4人で合唱曲や賛美歌、ヒットポップスを2〜4部合唱などで6曲披露した。「世界に二つだけの花」では約40人の観客も一緒に両手をひらりと動かし盛り上がりを見せていた。訪れた太田恵滋さん(2)

木のぬくもりがあふれるほとりにあ館内で行われた新春ミニコンサート
「同市馬町」は「歌や演奏を聴いて心が温かくなつていくよな感じがした。また来年も参加したい」と話していた。

県指定天然記念物 **三瀬葉山ニッポンユビナガコウモリ群棲地** (鶴岡市)



群棲地は葉山(中央)の右斜面の断崖絶壁にあり、波が穏やかな時のみ入れる

断崖の洞窟 集団で育む命



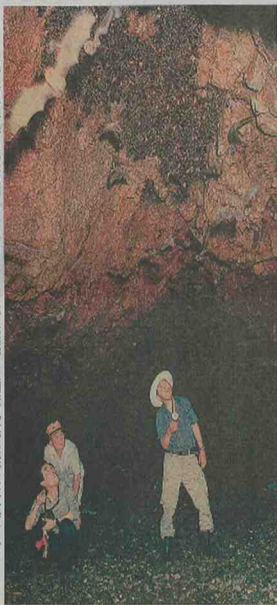
554

鶴岡市三瀬葉山の断崖絶壁の洞窟に、ニッポンユビナガコウモリが群棲している。この洞窟は、かつては「三瀬葉山」の名で知られていた。洞窟の入り口は、断崖の間にあり、波が穏やかな時のみ入れる。この洞窟には、ニッポンユビナガコウモリが群棲している。この洞窟は、かつては「三瀬葉山」の名で知られていた。洞窟の入り口は、断崖の間にあり、波が穏やかな時のみ入れる。

体の色が黒く、茶色の模様がある。この洞窟には、ニッポンユビナガコウモリが群棲している。この洞窟は、かつては「三瀬葉山」の名で知られていた。洞窟の入り口は、断崖の間にあり、波が穏やかな時のみ入れる。

この洞窟には、ニッポンユビナガコウモリが群棲している。この洞窟は、かつては「三瀬葉山」の名で知られていた。洞窟の入り口は、断崖の間にあり、波が穏やかな時のみ入れる。

この洞窟には、ニッポンユビナガコウモリが群棲している。この洞窟は、かつては「三瀬葉山」の名で知られていた。洞窟の入り口は、断崖の間にあり、波が穏やかな時のみ入れる。



洞窟の天井に集まりコロニーを形成するニッポンユビナガコウモリ(鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」の館長兼学芸員上山剛司さん提供)



洞窟の天井に集まりコロニーを形成するニッポンユビナガコウモリ(鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」の館長兼学芸員上山剛司さん提供)



この洞窟には、ニッポンユビナガコウモリが群棲している。この洞窟は、かつては「三瀬葉山」の名で知られていた。洞窟の入り口は、断崖の間にあり、波が穏やかな時のみ入れる。

この洞窟には、ニッポンユビナガコウモリが群棲している。この洞窟は、かつては「三瀬葉山」の名で知られていた。洞窟の入り口は、断崖の間にあり、波が穏やかな時のみ入れる。

メモ

「三瀬葉山ニッポンユビナガコウモリ群棲地」への遊歩道はなく、一般公開していない。

3800キロ離れたロシアから 大山上池にコハクチョウ

首に赤い標識確認

一昨年チャウン湾で捕獲と判明

鶴岡市大山上池に標識を付けたコハクチョウが確認された。この個体は一昨年の夏、上池から直線距離で約3800キロ離れたロシアのチャウン湾で捕獲、標識を付けられたことが判明。市自然学

習交流館ほとりあでは「温暖化の影響もあり、コハクチョウなど大型の水鳥の生息地は大きく変化している。研究者同士が標識個体の確認地点を共有することで、渡り鳥の生

態の情報が蓄積される」と話している。ほとりあによると、コハクチョウが確認されたのは今月11日午前8時10分ごろ。ほとりあサポーターで同市大山上在の和田亮さんが首に赤い標識がある個体を見つけた。性別は不明だが成鳥という。標識番号(C20)を基にほとりあが照会した

ところ、2020年8月19日にロシアの研究者がチャウン湾で捕獲した個体と判明した。ほとりあは「標識個体の確認地点を共有することで、コハクチョウの移動経路や繁殖、越冬、中継地、寿命などさまざまな情報を蓄積することができる。標識の付いた個体を見かけたら、ほとりあまで連絡を」と話している。



首に赤い標識が付いたコハクチョウ。ほとりあ提供



ロシア・チャウン湾から鶴岡市の上池までは直線距離で約3800キロ

2023年1月16日

山形新聞



ガンの生態などについて話す呉地正行会長
＝鶴岡市自然学習交流館ほとりあ

鶴岡

日本雁を保護する会の呉地正行会長を招いた講演会「ガンのいる風景をもう一度」

見たいガン飛ぶ風景

保護団体会長 野鳥の生態など講演

ワイド地域プラスPLUS

湿地の活用が地域の未来をつくる」が15日、鶴岡市自然学習交流館ほとりあで開かれた。呉地さんは同市の大山上池・下池にも飛来するガンなど野鳥の生態や生息数などについて語り、訪れた人が聞き入った。

呉地さんはガンについて、1942（昭和17）年ごろまでは全国各地で見られたが、湿地の開発や狩猟などで個体数が減り、71年（同46）に国の天然記念物に指定され狩猟禁止になったことを説明した。「ガンは環境の変化に敏感。個体数は増えてきているが、地球温暖化などの影響で生息場所の数は90年以降、横ばいで推移して」と述べた。

日本への渡りが一時途絶

えたシジュウカラガンについても紹介した。同会は米国から親鳥を借り受け、82（同57）年に八木山動物公園（仙台市）で人工繁殖した。95～2010年に13回

にわたり計約550羽を千島列島まで運び、放鳥したことなどを説明した。07年には家族群が宮城県栗原市で確認され、15年には飛来が3千羽を超え、復活に成功したと語った。

ほとりあの「里地里山学講座」の特別講座として開催し、36人が聴講した。（根本光輝）

2023年2月16日

荘内日報

竹あかりづくりワークショップ

鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」では、三瀬産の竹を使ったワークショップ「竹あかりづくり」を2月23日(木)に開催します。専用の紙型に合わせて、ドリルで穴をあけます。きれいな光が冬の夜の部屋を優しく照らしてくれます。時間は10時30分—12時と13時30分—15時の2回。参加費は寄付制で1本600円以上です。事前予約は20日まで。定員などは同館にお問い合わせください。

問い合わせは、ほとりあ＝電0235(33)8693＝へ。メールはinfo@hotoria-tsuruoka.jp

2023年2月26日

荘内日報

「竹明かり」でできたよ

ほとりあ親子で工作楽しむ



「うまくできた」と作品を持つ伊藤梨乃さんと壮汰君

「竹明かりづくり」が23日、鶴岡市馬町の市自然学習交流館「ほとりあ」で行われた。庄内一円から20組の親子合わせて32人が参加し三瀬地区の竹林から切り取った竹を材料に工作を楽しんだ。

全国的に荒廃が進む竹林問題が叫ばれる中で、適切な管理と維持につなげようと「ほとりあ」が初めて企画した。

この日は、高さ約40センチ

確認できるシステムを構築。

竹にドリルを使って穴を開け、模様を施した後、竹の中に豆電球を入れて仕上げた。祝日に家族4人で参加した伊藤梨乃さん(9)と壮汰君(7)のきょうだいは「とても楽しかった。うまくできたと思う。ベッドのそばに置いて眺めたい」と笑顔を見せた。

「ほとりあ」では、新年度以降も一般を対象に竹明かりを作って近くの「都沢湿地」に設置し、夜に散策会を行うことを考えている。

2022 年度 都沢湿地保全管理事業報告

1. 通常管理

(1) 1号・2号取水水門の調整及び湿地内への入水排水管理

都沢湿地は、下池の水門2か所を水源としている。当該水門における堆積物の除去や湿地への入水、排水による湿地の水管理を行った。2号水門（旧八沢川土地改良区、現馬町農家さんが管理）に関しては、数年単位で運転手が交代し、入水排水の調整が近年困難を極めていた。また、冬季間の親水水路への堆積物の侵入もあり、今後の管理の在り方については検討が必要である。

(2) 入水溝への外来生物侵入禁止網の設置

(3) その他

野鳥営巣進入禁止区域の管理、ゴミ清掃、水路管理など

2. 都沢湿地保全管理事業

(1) 保全管理イベント実績

今年度はこれまでの通常イベントに加え、昨年度に引き続き、マコモやヨシの刈り取りなど10回の活動を計画し、218名（1回あたりの平均21.8名）の方が活動に参加いただいた。1回あたりの平均参加者数は昨年度よりも増え、参加団体もこれまでの朝陽ライオンズクラブ、ソニーセミコンダクタソリューションズに加え、鶴岡ライオンズからの参加もあった。また、マコモの刈り取りと粉末づくりなどを開催したこともあり、これまで保全管理活動に参画しなかった女性層や子どもたちの参加が増えた。保全管理イベントの参加者は次頁の表のとおり。



6月12日 マコモの刈り取りと粉末づくり



10月1日 湿地の草刈り集草

(2) 西郷土地改良区との外来植物駆除活動

開館から毎年1回、西郷土地改良区と下池堤体内の外来植物駆除を実施している今年度はアメリカセンダングサの生育が多数確認され、その駆除作業を行った。

(3) 就労支援事業所による保全管理事業

昨年度から多機能型事業所いちほ（鶴岡市青柳町）と委託契約を結び、年間（月1～2回）の個人派遣、3～10月までの月1回の団体派遣を通じて湿地の集草作業に参加してもらっている。



集草運搬作業風景

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
回数	7	4	5	5	6	6(1)	5	5	5	8	10
参加者数	149	144	167	136	137	145	154	123	123	158	218
平均	21.3	36.0	33.4	27.2	22.8	24.2	30.8	24.6	24.6	19.8	21.8
4月14日	都民湿地の水辺管理および湿地管理方針の検討	親水水路の草刈り	親水水路草刈	早期外来植物駆除	5月14日 外来生物捕獲大作戦	5月20日 大作戦	5月19日 外来生物捕獲大作戦	5月18日 作業	5月18日 作業	5月15日 作業①	6月11日 親水水路の草刈り
4月29日	ノハラ草駆除①	下池堤体の外菜植物駆除	早期外来植物駆除	6月6日 親水水路草刈	6月11日 親水水路草刈	6月10日 親水水路草刈	6月9日 親水水路草刈	6月8日 親水水路草刈	6月8日 親水水路草刈	6月12日 親水水路の草刈り作業	6月12日 アコモの刈取りとアコモ茶作り
5月19日	ノハラ草駆除②	アウリカゼンダツクサなどの外来植物駆除	9月6日 (下池) 外来植物駆除	9月5日 外来植物駆除(下池)	9月3日 都民湿地の外来植物駆除	6月16日 親水水路草刈	9月8日 外来動物駆除	9月7日 外来動物駆除	9月7日 外来動物駆除	6月13日 アコモの刈取りとアコモ茶づくり①	6月18日 ミズオオイの生實場所作りとアコモの草刈
6月9日	親水水路周辺の草刈り活動	9月19日 外来植物駆除 アウリカゼンダツクサなどの外来植物駆除	9月13日 外来植物駆除	9月12日 外来植物駆除	9月17日 大山下池の外来動物駆除	9月17日 外来動物駆除	9月15日 大山下池の外来動物駆除	9月14日 大山下池の外来動物駆除	9月14日 大山下池の外来動物駆除	6月26日 アコモの刈取りとアコモ茶づくり②	7月2日 アコモの刈取りとアコモ茶作り
9月8日	アウリカゼンダツクサなどの外来植物駆除	10月4日 アウリカゼンダツクサなどの外来植物駆除	10月3日 アウリカゼンダツクサなどの外来植物駆除	10月3日 外来植物駆除	10月1日 外来動物駆除	10月1日 大山下池の外来動物駆除	10月5日 アコモの刈取りとアコモ茶づくり	10月5日 アコモの刈取りとアコモ茶づくり	10月5日 アコモの刈取りとアコモ茶づくり	7月22日 アコモの刈取りとアコモ茶づくり②	7月23日 アコモの刈取りとアコモ茶づくり
10月6日	アウリカゼンダツクサなどの外来植物駆除	10月22日 アウリカゼンダツクサなどの外来植物駆除	10月22日 アウリカゼンダツクサなどの外来植物駆除	10月22日 アウリカゼンダツクサなどの外来植物駆除	10月22日 アウリカゼンダツクサなどの外来植物駆除	10月7日 都民湿地の外来動物駆除 おぼろひろばの刈り取り	10月6日 アコモの刈取りとアコモ茶づくり	10月6日 アコモの刈取りとアコモ茶づくり	10月6日 アコモの刈取りとアコモ茶づくり	7月23日 アコモの刈取りとアコモ茶づくり	8月6日 アコモの刈取りとアコモ茶づくり
備考	企画部全体参加	企画部全体参加	企画部全体参加	企画部全体参加	ソニー参画(*赤字)	ソニー参画(*赤字)	ソニー、朝陽ライオンズクラブ参画(*赤字)	ソニー、朝陽ライオンズクラブ参画(*赤字)	ソニー、朝陽ライオンズクラブ参画(*赤字)	朝陽ライオンズクラブ参画(*赤字)	ソニー、朝陽ライオンズクラブ参画、朝陽ライオンズクラブ参画(*赤字)

3. 攪乱事業

2023年3月23日(木)～27日(月)に都沢湿地中央南側区域で実施。



4. 刈り取り集草事業

(1). 刈り取り集草場所および時期と回数

主な刈り取り場所は以下の6カ所。不定期的ではあるがイベントや校外学習の受入でマコモの刈り取りを実施した。

(1) A 区域……………5～6月、9～10月の2回実施。

刈ったマコモなどの大型草本は集積場に運び出したが、一部はA区域内に集草した。

(2) B 区域……………5～6月、9～10月の2回実施。

(3) C 区域……………5～6月、9～10月の2回実施。

(4) E 区域……………10月に1回実施。【他】春、秋トラクター耕起

(5) F 区域……………7月に1回実施。



中央北側区域(C)の刈り取り集草(5月)



北側区域(B)の集草作業(10月)

(2). 刈り取り集草場所の図



5. 外来生物定期駆除

5-1. ウシガエル成体および幼体の捕獲状況

(1). 捕獲日数及びワナ数

5月15日～10月22日の期間に45日間、4,974罟を設置し、捕獲調査を実施。

(2021年度：5月13日～10月30日の期間に50日間、5,160罟)

(2). 捕獲結果

・【成体】771個体のウシガエル成体を捕獲。(2021年：992個体、2020年：623個体)

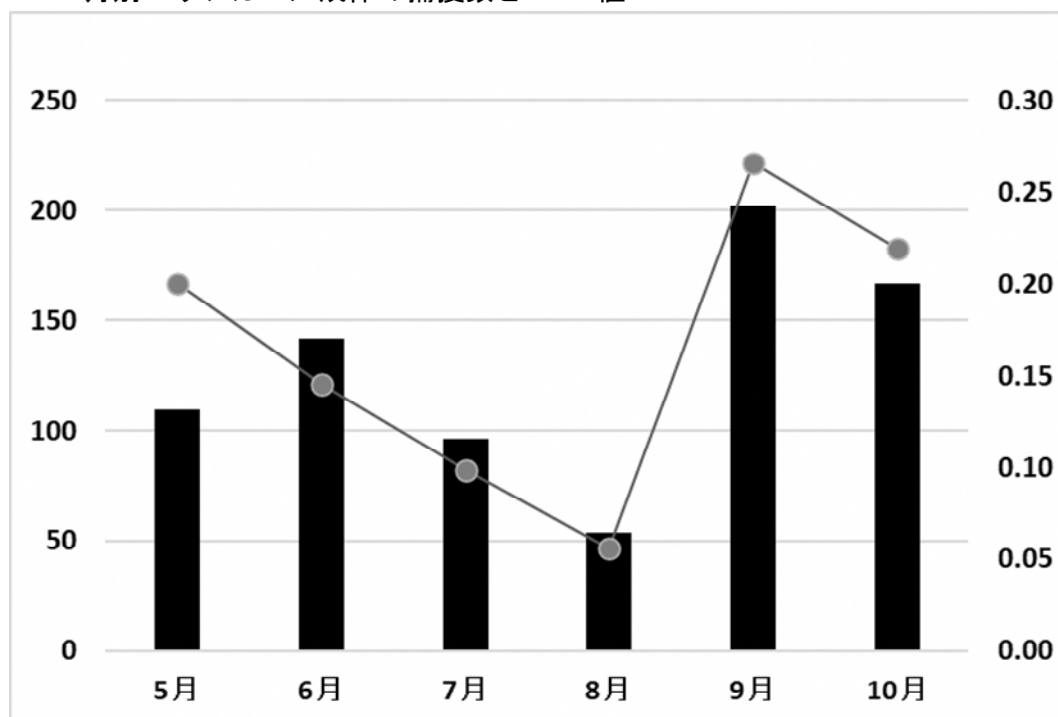
年間のCPUEは成体0.16(2021年：0.19、2020年：0.15)

・【幼体】6個体のウシガエル幼体を捕獲。(2021年：0個体、2020年：24個体)

年間のCPUEは幼体0.001(2021年：0.00、2020年：0.01)

(3) 2022年度 ウシガエル捕獲状況

(3)-1. 月別 ウシガエル成体の捕獲数とCPUE値



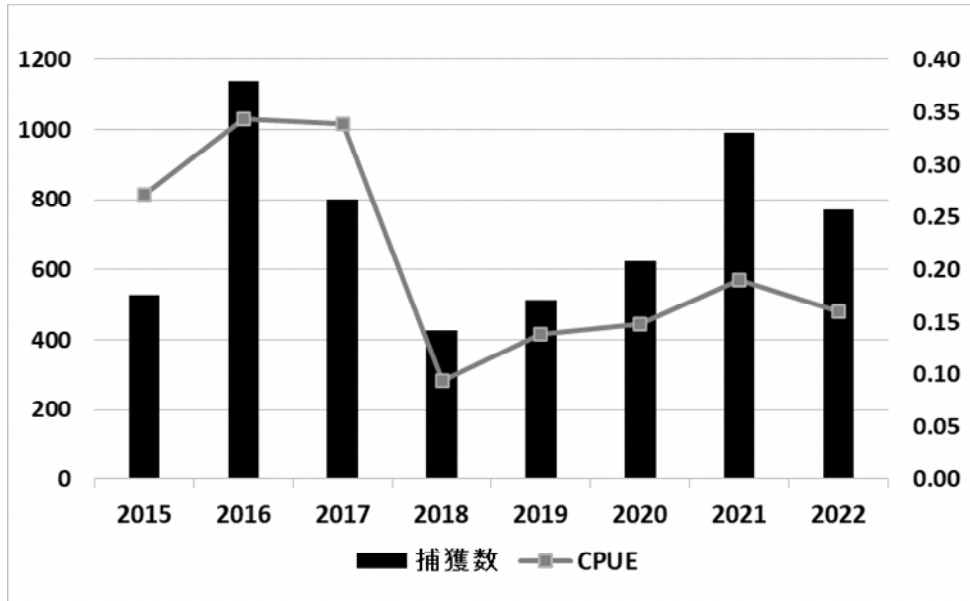
(3)-2. ウシガエル年度別捕獲数表

ウシガエル	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
オス	365	210	523	388	125	129	292	484	375
メス	389	305	612	380	217	227	308	484	390
不明	25	11	4	31	86	157	23	24	6
捕獲数	779	527	1139	799	428	513	623	992	771
幼生	914	2434	3564	266	72	82	24	0	6
ワナ数	2280	1938	3320	2356	4550	3704	4210	5160	4974
成体CPUE	0.34	0.27	0.34	0.34	0.09	0.14	0.15	0.19	0.16
幼体CPUE	0.40	1.26	1.07	0.11	0.02	0.02	0.01	0.00	0.001

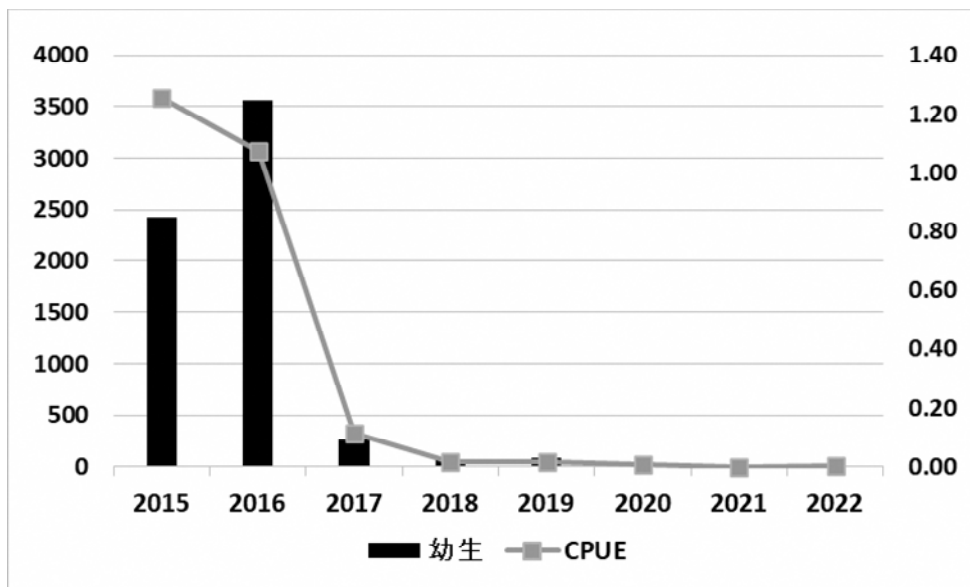
*CPUE(Catch Per Unit Effort: 単位捕獲努力量あたりの捕獲数=捕獲頭数÷ワナ数)

(4) ウシガエル年度別捕獲数

(4) - 1. 年度別 ウシガエル成体の捕獲数と CPUE 値



(4) - 2. 年度別 ウシガエル幼体の捕獲数と CPUE 値



5-2. アメリカザリガニ捕獲状況

(1) 捕獲日数及びワナ数 *ウシガエルと同じ

(2) 捕獲結果 *CPUE (Catch Per Unit Effort : 単位捕獲努力量あたりの捕獲数=捕獲頭数÷ワナ数)

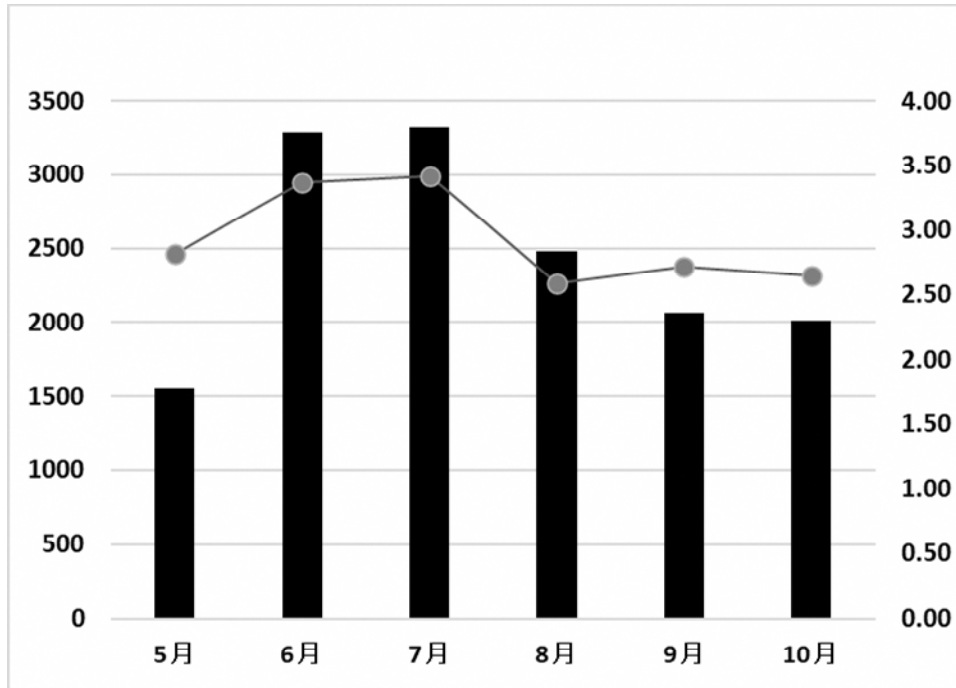
・結果、**14,702 個体 (大 9,828 個体、小 4,874 個体)** のアメリカザリガニを捕獲。

(2021 年 : 13,352 個体、2020 年 : 10,775 個、)

・全体 CPUE **2.96**、大=1.98、小=0.98 (2021 年 CPUE 2.59、大=1.08、小=1.51)

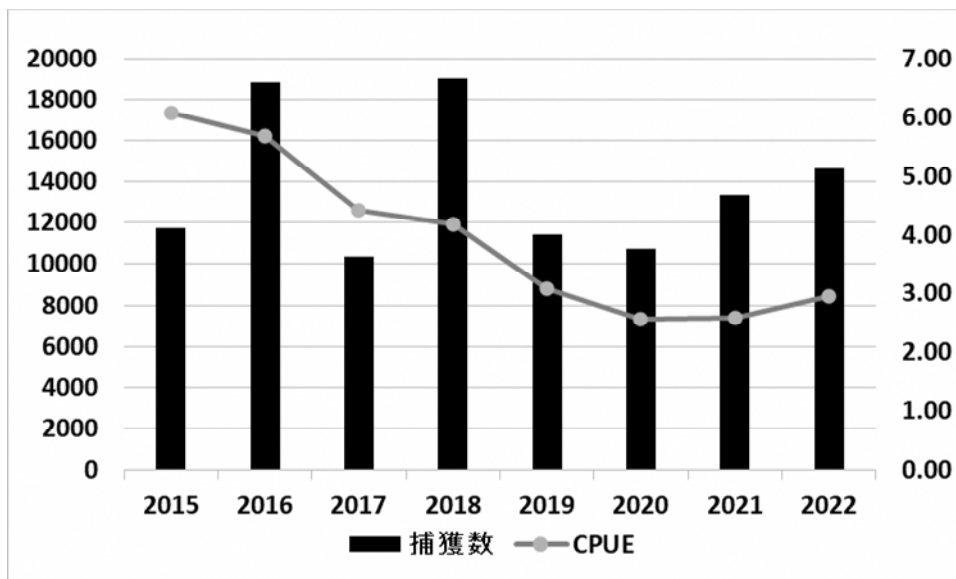
(3) 2021 年度 アメリカザリガニ捕獲状況

(3)-1. 月別 アメリカザリガニ捕獲数と CPUE 値

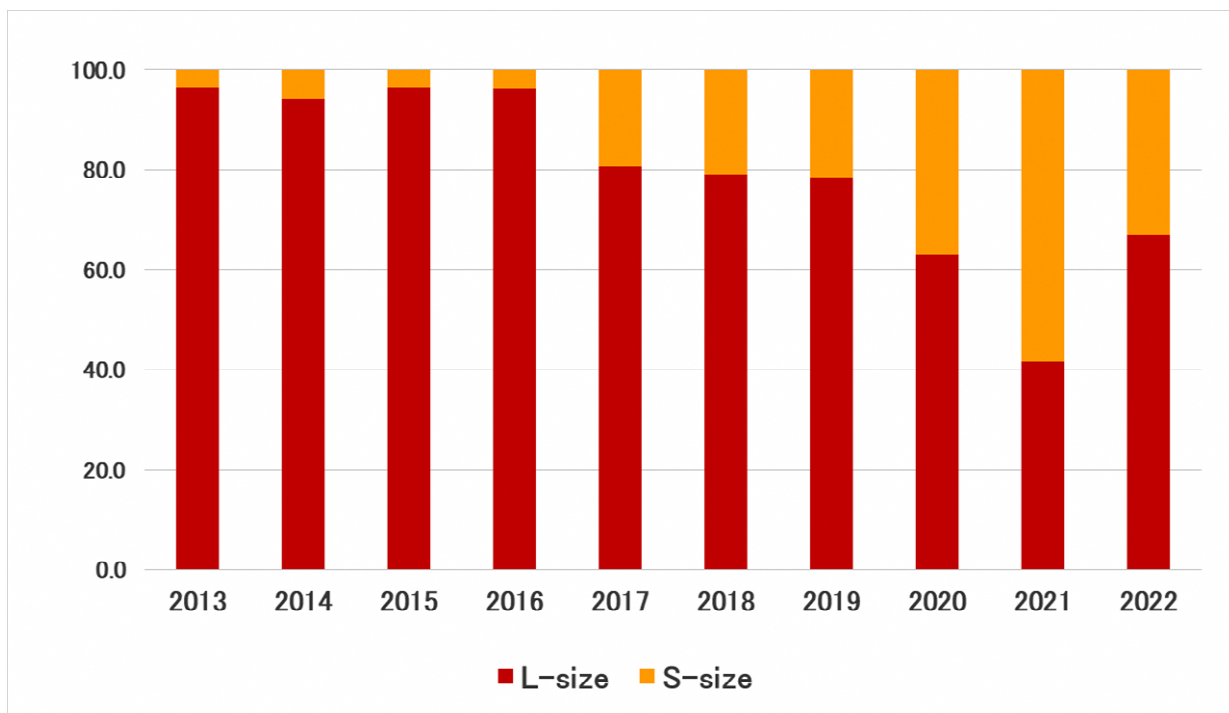


(4) アメリカザリガニ年度別捕獲数

(4)-1. 年度別 アメリカザリガニの捕獲状況と CPUE 値



(4) - 2. 年度別 アメリカザリガニの捕獲に対する体サイズの割合



(4) - 3. 年度別 アメリカザリガニ捕獲数表

アメリカザ	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
大	12677	11359	18162	8380	15024	8994	6793	5565	9828
小	772	416	718	2003	3989	2467	3982	7787	4874
捕獲数	13449	11775	18880	10383	19013	11461	10775	13352	14702
ワナ数	2280	1938	3320	2356	4550	3704	4210	5160	4974
大CPUE	5.56	5.86	5.47	3.56	3.30	2.43	1.61	1.08	1.98
小CPUE	0.34	0.21	0.22	0.85	0.88	0.67	0.95	1.51	0.98
CPUE	5.90	6.08	5.69	4.41	4.18	3.09	2.56	2.59	2.96

4. 協議

(1) 2023年度 庄内自然博物館構想推進体制（案）及び会議予定（案）

■ 組織

(1) 庄内自然博物館構想推進協議会（年1回開催） 3月29日（水）

(2) 中長期計画策定委員会兼運営委員会（年5回開催）6月、8月、10月、12月、2月

- ・基本構想及計画が10年以上経過していることから、見直しも含め、中長期計画を策定する。
- ・各事業、イベントの企画、実施はそれぞれのワーキンググループを基本とし、全体的な調整及び情報の共有を図る。

(3) 関係機関調整会議（必要に応じて随時開催）

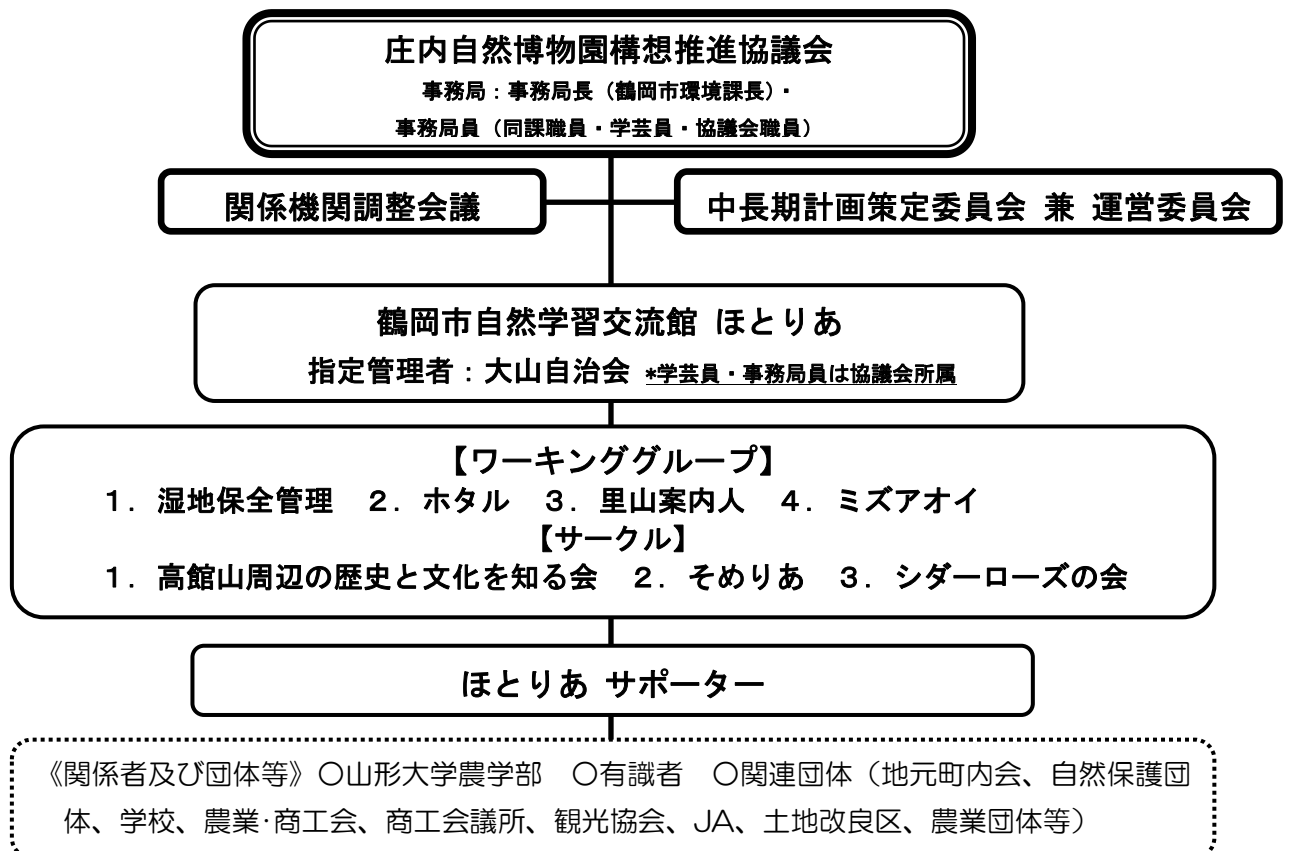
- ・事業推進のため情報を共有し、課題について関係機関・団体等と調整を図る。

(4) ワーキンググループ

- ・同じ活動目標を持った運営委員及びサポーターはワーキンググループを設立することができることとし、事務局及び他のグループ間との連絡を密にする。

(5) サポーター制度

- ・事業の充実を図るために活動の補助を行うサポーター制度を実施する。
- ・2021年度よりサポーター登録制度を改定しており、加入希望者の目的に併せた内容としている。
- ・サポーターは里山の保全活動、自然環境教育、里山利活用推進の3つの活動を中心に、事業補助などの活動を行う。
- ・1回（約2時間）のサポーター活動につき、1枚のサポーター券を配付する。



(2)

2023 年度協議会事業（案）及び施設事業計画（案）

1. 保全管理事業

1-1. 外来生物駆除（ウシガエル、アメリカザリガニ）

実施期間：5月～10月

実施場所：都沢湿地、下池周辺も検討

体制：有償活動（約180時間）

1-2. 外来植物駆除（セイタカアワダチソウ、ブタクサ、アメリカセンダングサなど）

実施期間：5月～10月

実施場所：都沢湿地、下池堤体（所有：西郷土地改良区）

体制：サポーター、地域、企業活動など（*活動状況を見ながら有償活動も検討）

1-3. 外来生物排除区域内の動植物調査

実施場所：都沢湿地北側区域

目的：都沢湿地内にウシガエルやアメリカザリガニが侵入できない区域を設置し、水性動植物の回復をはかる。

その他：本事業は、2017年度に経団連自然保護基金採択事業として開始し、2018年度にはセブンイレブン活動助成によって新たに区域を設置した。2019年度予算で旧どろんこ広場に池を築造している。

1-4. 草刈り作業

実施期間：年3回（6，8，10月）

実施場所：都沢湿地

体制：有償活動

1-5. ヨシ・マコモ刈り取り隊事業

実施期間：6～10月

実施場所：都沢湿地

体制：市民による指定された区域内のヨシ、マコモの刈り取り作業

1-6. 湿地保全管理イベント事業

実施数：年12回（今年度は12回うち8回開催）

体制：保全管理ワーキンググループ

参加条件：サポーターおよび関係機関や地域住民

1-7. ヨシ焼事業の検討

実施期間：4月

実施場所：都沢湿地

体制：ヨシによる陸地化が進んでいる場所のヨシ焼。ただし、22年度は雪が多く、実施できるか関係者と協議

1-8. 家畜導入による湿地管理

実施期間：5月～10月

実施場所：都沢湿地

体制：TOTO助成金によりヤギをレンタルすることが可能となった。ヤギによる除草や刈り取り後の草の採草利用の可能性を検討する。

1-9. 巡視事業（調整中）

実施期間：4月～3月

実施場所：高館山、下池湖畔、都沢湿地

体制：有識者への個人依頼（無償活動）

1-10. みまもり隊事業

実施期間：4月～3月

実施場所：高館山、下池湖畔、都沢湿地

体制及び内容：サポーターを中心に貴重植物の盗掘防止や事業の普及啓発活動として実施。

2. 自然学習事業

2-1. 自然観察会

実施数：年8回（今年度13回実施）

体制：講師およびスタッフ、サポーター

2-2. 里地里山学講座

実施数：年5回（今年度3回）

体制：講師：5回

2-3. 里地里山学講座 特別講座

実施数：年1回（今年度1回）

体制：講師：1回

2-4. 座談会・学習会

実施数：年2回（今年度1回）

体制：スタッフ、ワーキンググループ

内容：地域資源の活用方法をテーマに実施予定。

2-5. アメリカザリガニ捕獲大作戦（今年度1回）

実施数：年2回

体制：スタッフ、サポーター、参加団体

内容：参加団体毎の都沢湿地全体のアメリカザリガニ駆除

2-6. 都沢湿地こどもワークショップ

参加者：庄内地域の新小学4年生～新中学2年生までの児童、生徒

内容：都沢湿地の自然や歴史について調べ、現状と課題について考える。

2-7. ほとりあイベントスタンプカード事業

実施期間：4月～9月

内容：水辺のいきもの探しやほとりあのイベントへの参加を促進する事業

2-8. 都沢湿地ウォークラリー事業

実施期間：通年

内容：都沢湿地を散策しながら湿地や施設について学ぶ事業。

雨天時は館内でも対応可能。

2-9. 釣り竿事業

実施期間：4～10月

内容：湿地の資源を活用した釣り竿の販売事業

2-10. 自然散策会

実施数：春（4月、3月）10回

体制：里山案内人ワーキンググループ

内容：都沢湿地、下池、高館山を案内人と一緒に散策するイベント

2-11. どんこ広場活用事業

実施数：年2回

体制：地元保育園を招待、関係団体との共催事業

2-12. 学習発表会

開催日：2024年3月第2週の土曜日を予定

2-13. ワークショップ事業（有償）

目的：身近な自然環境への興味関心を高める若年層向け、親子向けWS

実施数：年20回

内容：野草茶づくり、ヨシ紙づくり

体制：サポーターおよび地域住民

参加条件：申込みあり、参加費あり

2-14. ワークショップ事業（無償）

目的：身近な自然環境への興味関心を高める若年層向け、親子向けWS

実施数：年20回

内容：折り紙、童謡、絵本の読み聞かせ、いきものミッケなど

体制：サポーター

参加条件：申込みなし、参加費なし

3. SDGs 事業

3-1. SDGs 学習会

実施数：年2回

体制：環境省及び実践地の講師

3-2. ほとりあ SDGs パートナーの設立

ほとりあと共に SDGs について学び、一緒に SDGs 事業を行っていく企業、団体を募集

4. ラムサール条約登録湿地事業

4-1. いきもの絵・ぬり絵コンテスト

市内及び庄内地域の幼保・小学生を対象に開催を検討。

4-2. コハクチョウの初飛来日あてコンテスト 2023

4-3. ボート遊び事業

5. 外部資金採択事業

5-1. TOTO 水環境基金（採択決定）

① 申請名申請事業名

「市民参加型の湿地資源の活用と循環による持続的な湿地再生と地域文化の継続の可能性の検討」

② 申請額：789,400円（採択額：780,000円）

③ 申請内容：ハス、ヒシを活用した湿地資源の循環による地域文化の存続

5-2. セブンイレブン環境活動助成（申請中）

- ① 申請名「多様なステークホルダーによる湿地資源の活用と循環の可能性」
- ② 申請額「831,730 円」
- ③ 申請内容：生物文化多様性による湿地保全、ヨシの火入れ作業
指標種を用いた湿地再生活動、

5-3. 公益信託 荘内銀行ふるさと創造基金（申請中）

- ① 申請名「市民参画による高館山の環境保全の可能性と環境教育の実践」
- ② 申請額：370,000 円
- ③ 申請内容：高館山の看板、学習会の実施

6. 里地里山活用事業

6-1. 薪確保作業

実施期間：4月～10月

体制：スタッフ及び有償活動

6-2. 里山マルシェ

実施期間：年1回（9月実施予定）

体制：ほとりあスタッフおよびサポーター中心に企画、実施。

6-3. 外来生物活用プロジェクト（店舗への食材提供）

提供物：ウシガエル、アメリカザリガニ

提供店舗：鶴岡市内の飲食店提供予定

6-4. 外来生物活用プロジェクト（粉末化事業）

内容：粉末化したアメリカザリガニの料理店や家庭での利用促進

6-5. マコモ活用事業

体制：ほとりあスタッフおよびサポーター

内容：刈取りをする大型湿性草本のヨシやマコモの有効活用を検討
レンタル・ヤギの導入による湿地資源循環の取り組み

6-6. ヒシ、ハスの活用循環事業（TOTO およびセブンイレブン記念事業）

内容：江戸時代から続く浮草組合の権利物であるヒシやハスの活用について検討。
活用をとおして、湿地資源の循環と文化について考える。

6-7. 湿地の恵みのファーム事業（大豆畑）

体制：ほとりあスタッフおよび地元農家

内容：刈取りをする大型湿性草本の堆肥活用と作物の利用。大豆を想定。

7. 展示事業

7-1. 企画展示

回数：年2回程度

内容：太田威氏の写真展、愛鳥週間、外来生物展示、水生昆虫展示など

7-2. 館内展示

里山情報掲示板や野鳥情報の更新

8. 調査研究

8-1. 大山上池・下池都沢湿地植生調査

委託：山形大学農学部 林田 光祐 教授

8-2. 大山上池・下池水質調査

委託：山形大学農学部 梶原 晶彦 助教

8-3. UAVによる湿地環境解析の可能性調査

飛行委託：フレームワークス写真事務所（齋藤圭介氏）

8-4. ワーキンググループ、サークルなどのサポーター調査活動

- ・ホタルの生息やギフチョウの産卵調査
- ・ハスの発芽および移植実験
- ・自動撮影装置による野生生物調査
- ・指標生物種のモニタリング調査
- ・高館山周辺の歴史文化
- ・里山の資源を活用した草木染め

9. 先進地視察事業

9-1. 里地里山先進地視察

開催：年1回程度、対象者：関係機関、サポーター、ほとりあ、環境課

10. 地域交流連携事業

10-1. 大山地域まつり連携事業

大山公園さくらまつり、大山新酒酒蔵まつりとの連携

10-2. 高館山少年教室への協力

10-3. 就労支援施設の実習の受入

鶴岡市内の就労支援施設より実習の受入依頼があり、年2回ほどの受入を検討。

10-4. 鶴岡第五中学校地域学習の受入

11. 連携事業

11-1. 森林文化都市関連施設連携事業

市内にある自然学習施設との連携事業を検討

12. 普及啓発物作成

12-1. 活動報告書の制作

2021～2022年度の年間活動報告書を作成

12-2. 看板製作 *荘内銀行ふるさと創造基金助成事業（申請中）

ほとりあ周辺の自然環境の活用のための看板製作

12-3. 施設および周辺の自然情報リーフレットの作成

湿地活用に関するパンフレット（助成金採択可否により実施検討）

12-4. その他

手ぬぐいや缶バッジ、ぬいぐるみなどPRグッズの開発

(3)2023(令和5)年度 庄内自然博物館構想推進協議会 収支予算(案)

2023(令和5)年度 庄内自然博物館構想推進協議会予算

収 入

単位:円

項目	本年度予算額	備考
補助金(鶴岡市)	15,418,000	協議会事業に対する補助金
管理委託費	30,000	
環境応援寄附金	220,000	環境応援寄附金(ざりっ粉粉末加工料、人件費)
利子等	1,000	
合計	15,669,000	

支 出

項目	本年度予算額	備考
鶴岡市からの補助金に対する支出		
(1)人件費	9,182,000	職員人件費(3名)・社会保険料・労働保険料等
(2)報償費	657,000	ボランティア等謝礼・外来種駆除
(3)旅費	41,000	職員旅費
(4)需用費	577,000	自然学習消耗品・食糧費・活動報告書印刷製本費等
(5)役務費	384,000	通信料・手数料・保険料
(6)委託料	228,000	草刈作業、ざりっ粉粉末加工料
(7)補助金	4,600,000	地域おこし協力隊(人件費・活動費)
合計	15,669,000	

2023(令和5)年度 TOTO水環境基金助成

収 入

単位:円

項目	本年度予算額	備考
TOTO水環境基金助成	780,000	採択決定 (申請額793,100円)
合計	780,000	

支 出

項目	本年度予算額	備考
市民参加型の湿地資源の活用と循環による持続的な湿地再生と地域文化の継続の可能性の検討		
(1)消耗品費	276,000	プラ舟、ブロック、コンパネ
(2)広報費	234,000	保全活動参加者用手ぬぐい制作費、浮草組合のパンフ
(3)賃借料	30,000	ヤギレンタル費用
(4)旅費交通費	75,000	庄内ー福井往復(ガソリン・ETC料金)、宿泊費
(5)講師謝金	15,000	ヒアリング謝礼
(6)人件費	150,000	ボランティアコーディネーター 人件費
合計	780,000	

2023(令和5)年度 一般財団法人セブン-イレブン記念財団 環境市民活動助成

収 入

単位:円

項目	本年度予算額	備考
セブン-イレブン記念財団活動助成	831,730	申請中 (申請額831,730円)
合計	831,730	

支 出

項目	本年度予算額	備考
多様なステークホルダーによる湿地資源の活用と循環の可能性		
(1)備品費	424,810	ジェットシューター、粉砕機
(2)消耗品費	91,930	折りたたみ簡易水槽、あなご籠
(3)旅費交通費	148,290	庄内ー北海道往復(航空代)、宿泊費など
(4)広告費	116,700	湿地資源活用事例パンフレット
(5)講師謝金	50,000	座学講座謝礼
合計	831,730	

2023(令和5)年度 公益信託 庄内銀行ふるさと創造基金

収 入

単位:円

項目	本年度予算額	備考
庄内銀行ふるさと創造基金	370,000	申請中 (申請額370,000円)
合計	370,000	

支 出

項目	本年度予算額	備考
外来生物活用プロジェクト「食べて環境保全」の実践と普及啓発		
(1)印刷製本費	40,000	看板シール
(2)看板作成費	300,000	木製看板作成
(3)報償費	30,000	座学講師謝礼
合計	370,000	

※本助成は現在申請中であり、採択の是非及び金額については未定

環境保全応援寄附金

単位:円

収入		支出案	
(1)R04年度繰越	612,285	(1)協議会事業関連(ざりっ粉粉末加工料)	100,000
(2)団体・個人からの寄附		※外来生物活用PJに関する費用	
(3)寄付金箱による寄附(ほとりあ設置)		(2)協議会事業関連(人件費)	120,000
(4)イベント等での寄附		※環境保全応援寄附金の2割	
収入計	612,285	支出	220,000

※今年度も引き続き寄附金の周知を進めるとともに、寄附金から上記事業への支出を検討したい。

4－(4) . 2023年度の運営委員会のあり方(案)について

A.【現状の運営委員会の体制】

- ・運営委員会は、施設及び事業の運営について協議する場として、**年3回**開催している。
- ・**2023年度は改選期**を迎える。

B.【博物館構想の課題】

- ・基本構想および計画は、10年以上が経っていることから、見直しを含め**中長期計画の策定**が必要である。
- ・**事業実施組織を確立**し、安定的な職員雇用と持続的な事業の実施。

C.【2023年度の運営委員会】

- ・2023年度の運営委員会は、中長期計画の策定にあたって、新たに「**中長期計画策定委員会**」を立ち上げるため、両会を並列して進めたい。

名称: 中長期計画策定委員会 兼 運営委員会

- ・**運営委員会**での事業運営の報告等については資料配布等にし、協議が必要な場合は、策定委員会と併せて協議の場を設けることとする。

4- (4). 2028(令和10)年に向けた 庄内自然博物館構想の中長期計画の検討

① 中長期計画を作成するための関係者のリストアップ

【中長期計画策定委員会の設置】

・策定委員会委員については、基本構想のエリアを様々な視点から事業計画が検討できる関係者及び運営委員会委員、省庁関係者からの選考を考えている。

例) 地元教育機関や浮草組合(上池・下池のハスの活用)、森林組合、授産施設
加茂水族館(自然環境施設連携)、鶴岡市SDGs登録団体、鶴岡市内の民間企業の参画など

- ・委員人数: 15名程度
- ・アドバイザー人数: 数名

運営スケジュール(案)

2023年度より1年から1年半の期間に検討(会議は隔月ペースで開催)
*可能であれば、2023年度中には策定できるように事務局でも努力していく。

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023	策定委員会準備		第1回委員会		第2回委員会		第3回委員会		第4回委員会		第5回委員会	協議会
2024		第6回委員会		第7回委員会		第8回委員会						協議会

4- (4). 2028(令和10)年に向けた

庄内自然博物館構想の中長期計画の検討

自然学習交流館「ほとりあ」が開館し、10年が経過し、庄内自然博物館構想のもと、事業展開や運営が図られており、「湿地保全管理イベント事業や外来生物駆除事業」などの保全管理事業、また、教育普及事業として、「学習会や観察会」など、四季折々の自然環境を市民の方々に親しめるなどの事業の推進が図られている。

「ほとりあ」周辺の今後の状況として、高館山遊歩道が2023年度から本市への管理移管の計画があるなど、今後の博物館構想の中長期計画の策定が必要であり、2023年度から1年半くらいかけて、今後5年先を見据えた計画策定の検討に入りたいと考える。

【中長期計画の検討(案)】

① 検討項目と視点

- (1) ビジョン
- (2) 地域課題
- (3) 地域資源
- (4) 事業
- (5) 成果

② 推進したい環境エリア

例) a) 都沢湿地の今後のあり方

- ・湿地資源の活用

b) 高館山および遊歩道の利活用

- ・自然観察会などのイベントの開催

c) 大山上池・下池の利活用

- ・活用方法や利用計画の検討



地域社会(経済、社会、歴史文化)と環境が共に育まれる持続的な事業計画を策定したい

庄内自然博物館構想推進協議会 中長期計画策定委員会兼 運営委員会設置要綱 (案)

(目的)

第1条 庄内自然博物館構想の推進に係る 中長期計画 (案) を策定すること及び具体的なプログラム等を立案し、事業を実施することを目的とする。

(設置および名称)

第2条 前条の目的を達成するため、庄内自然博物館構想推進協議会 中長期計画策定委員会兼 運営委員会 (以下「中長期計画策定委員会兼 運営委員会」という。) を設置する。

(所掌事項)

第3条 中長期計画策定委員会兼 運営委員会は、第1条の目的を達成するために、次の各号に掲げる事項を所掌する。

(1) 中長期計画 (案) の策定

- (2) 運営に関する年度計画 (案) の策定
- (3) 運営に関するプログラム等の立案と実施
- (4) 事業展開における行政との協働の提案
- (5) その他必要な事項

(組織)

第4条 中長期計画策定委員会兼 運営委員会は、協議会で選任した者及び公募により選考された者で組織する。

- 2 中長期計画策定委員会兼 運営委員会には、委員の互選により、委員長1名、副委員長若干名を置く。
- 3 委員長は、会議の座長となる。ただし、委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代行する。

(任期)

第5条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(会議)

第6条 中長期計画策定委員会兼 運営委員会は、必要に応じて委員長が招集し開催する。

(意見の聴取)

第7条 中長期計画策定委員会兼 運営委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務局)

第8条 中長期計画策定委員会兼 運営委員会の事務局は、鶴岡市市民部環境課及び自然学習交流館内に置く。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、中長期計画策定委員会兼 運営委員会に関して必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成28年5月16日から施行する。

附 則

この要綱は、令和2年3月26日から施行する。

附 則

この要綱は、令和 年 月 日から施行する。

(仮称) J R E 加茂風力発電事業の中止の申し入れについて

本日、昨年 11 月 29 日付けで、鶴岡市における風力発電施設の設置等に係るガイドラインに基づく届出のありました、ラムサール条約登録湿地に近接した、(仮称) J R E 加茂風力発電事業について、事業者に対し中止を求めることとし、先ほど当該事業者に対し申し入れを行ったところでございます。

中止を求めることとした理由を申し上げます。

山形県におきましては、山形県再生可能エネルギー活用可能性調査報告書におきまして、風力発電の導入の候補地として抽出しておりますが、ラムサール条約登録湿地近傍であり、望ましくないと公表しているところでございます。

国では、当地は、国際的に価値があるラムサール条約登録湿地が近接しており、バードストライクや鳥の営巣、採餌場などへの影響を強く懸念しております。

また、一定の地域に複数の事業が集中する場合には、飛来ルート、採餌場への移動などへの累積的な影響が懸念される場合があります。

特に、ラムサール条約湿地に登録されるような、重要な生態系では、事前に慎重に判断することが重要との助言を各方面よりいただきました。

本市といたしましては、これら自然環境に詳しい方などに聞き取りを行った結果、(仮称) J R E 加茂風力発電事業に関しては、県で唯一登録されているラムサール条約登録湿地の近傍であり、クマタカなどの猛禽類の生息・営巣や、渡り鳥の生息への影響、また、自然環境、景観への影響が懸念されることから、「鶴岡市における風力発電施設の設置等に係るガイドライン」の制限対象区域に掲げる、日本遺産認定の「出羽三山」及び国指定名勝「金峯山」に関連する区域など、本市の豊かな自然環境や、歴史・文化的資源から構成され良好な景観を形成する区域に相当すると判断をしたところでございます。

以上のことから、予防的措置の観点も含め、今回の事業に関しては、中止を求めたところでございます。

令和 5 年 2 月 1 日

鶴岡市長 皆川 治